
【講 義】

国文学研究資料館和古書目録 データベースの作成

講師 増井ゆう子

(古典籍共同研究事業センター事務室副室長)

喜多妙子

(国文学研究資料館学術情報課古典資料目録係長)

平成27年度日本古典籍講習会
平成28年1月28日

国文学研究資料館和古書目録データベースの作成

国文学研究資料館
増井ゆう子
喜多 妙子

国文学研究資料館は、1982年に、開館当初から受け入れてきた和古書の書誌レコードを収載して『国文学研究資料館蔵和古書目録 1972-1981』を刊行した。それまでのNCRに準拠したカード体目録からデータベース作成に切り替え、その成果としての刊行であった。冊子体目録はその後数冊の年度版を経て、1997年度刊行の『1972-1997』により作成を終了し、当館和古書目録はデータベースでの公開のみとなった。

和古書目録独自のシステムでスタートしたが、現在は、マイクロ／デジタル資料、古典籍総合目録データとともに日本古典籍総合目録データベースに組み入れられ、その公開・維持・管理を続けている。

I. 国文学研究資料館和古書目録データベースの概要

和古書目録データベースには、現在、館蔵和古書・漢籍の書誌データ約21,000件が収録され、公開中の「所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベース」および「日本古典籍総合目録データベース」から検索することができる。

1. 国文学研究資料館古典籍関係の目録データベースについて (→別紙1)

和古書目録データを含む、「日本古典籍総合目録データベース」を中心とする、公開中の古典籍関係の目録データベースについて説明する。

日本古典籍総合目録 (+ 著作典拠ファイル 著者典拠ファイル)
所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベース
古典籍総合目録データベース
連携する目録データベース
日本古典資料調査データベース (調査カード)
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース 等
連携する画像データ
所蔵和古書・漢籍 デジタル画像
収集マイクロフィルムからのデジタル変換画像・収集デジタル画像

2. 日本古典籍総合目録データベースの構成と連携するデータ

日本古典籍総合目録では、和古書・マイクロ／デジタル・古典籍の各データにおいて、日本古典籍の目録の基本的な考え方として、個別資料（item）ごとに書誌データを作成している。その個々の書誌データ（諸本の情報）は、典拠コントロールの結果、著作（work）のもとに集められている。したがって、日本古典籍総合目録内で和古書・マイクロ／デジタル・古典籍の各書誌データは、著作・著者の典拠ファイルを共有して相互に結びついている。

さらに、館蔵和古書画像のほか、デジタル収集画像や収集マイクロからのデジタル変換画像を、マイクロ／デジタル資料・和古書目録データベースの検索結果から公開している。

また、2006年には、これまで別々にデータベースの構築が行われてきた、日本古典資料調査データベース、コーニツキー版欧州所在日本古書総合目録が、著作典拠を共有するべくプロジェクトを進め、日本古典籍総合目録との相互連携を一部であるが果たしている。

3. 日本古典籍総合目録書誌レコード作成の規則について

日本古典籍総合目録の書誌レコード作成は、『日本目録規則（NCR）』ではなく、独自の「日本古典籍書誌レコード作成要領」（配布）により行っている。これは、和古書・マイクロ／デジタル・古典籍全てのデータ作成の基本になる共通の和古書書誌データの規則であり、研究者からの提言である「日本古典籍の書誌記述」（第1日【講義】「日本古典籍の基礎知識」参考資料）を可能な限り反映したものである。

実際の作業のため、この下により詳細なデータ種別ごとのマニュアルが作成され、各々下記の特徴がある。

- ・和古書 形態に関する事項やメディア情報（請求記号、登録番号等）
漢籍固有の情報に関わる部分などを付加
- ・マイクロ／デジタル資料 フィルムに関わるメディア情報
メディアの制約を考慮
- ・入力システムに依存する部分も含む

また、この作成要領は、和（漢）古書の特性を活かし、その目録の要件である下記の点を考慮したものである。

- ・個別資料としての書誌情報
- ・書誌学的成果を取り入れた、その本を選び出す評価に結びつく個性
- ・どのような内容の本か（著作の認定）
- ・所蔵の場所や請求記号等の管理情報

なお、典拠コントロールに用いる新たな著作・著者データを作成するためのマニュアルを別途用意している。

II. 和古書目録データベースの特徴

1. 和古書の範囲

日本古典籍総合目録で扱う資料の範囲は、原則として、「慶応4年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）」である。詳細は作成要領1.1に定義されている。

① 著作の成立年を基準とする

- ・近代的印刷技法・出版によるものは除外するが、明治期の整版・木活字版および明治以降に書写した写本（新写本）は含む
- ・個々の資料の書写年・出版年ではなく、その資料に著されている著作の成立により範囲を区切ることで、同じ著作の明治版、同版の後刷、後修本などを一括して扱うことが可能となる

② 日本人の編著書（著作）

- ・日本語以外も含む

③ 古典籍（写本・版本）

- ・冊子・巻子本等の形態の他、特殊形態資料（一枚物、書簡、貼り交ぜ屏風、浮世絵等の絵画資料など）を含む

- ・なお、この作成要領では漢籍を対象としていないが、所蔵資料の目録としての和古書目録には、漢籍・朝鮮本を含む（1912年以前に著作が成立したもの）。
- ・当館での和古書の範囲外となる、明治初期以降に成立した著作の和装本・整版本は、NACSIS-CATへの登録を行っている。

また、I.1.で取りあげた、古典籍関係の目録データベースの収録対象範囲は、原則として下記のとおりである。

	和古書	漢籍	明治期	
古典籍総合目録 DB	○	×	×	
所蔵和古書 DB	○	○	×	明治期資料は NC 登録・OPAC
マイクロ／デジタル 目録 DB	○	○	○	明治期は写本・版本が対象 和装本であっても近代活字本は含まない
欧州所在日本古書 DB	○	○ 和刻本	○	近代活字を含む／洋装鉛印もあり

2. 当館和古書目録（日本古典籍総合目録）の特徴

和（漢）古書のみを対象とするデータベースのため、その特性を活かした特徴を備えている。また、資料に記載されている書名、出版者等の事項を取捨選択せず、原則としてすべて採録することにより多くの検索のキイを提供している。

〈 典拠コントロール（著作・著者） 〉

（ → 作成要領2. 1. 1 及び 別紙2 ）

標目部分（コントロール情報）と記述部分とを区別し、典拠コントロールを行っている。

（1）著作

和古書は、同じ内容をもつ（同じ著作にとりまとめられる）資料であっても、その本や版により多様な異なった書名をもち、あるいは、1つの本の中にもいくつもの異なった書名が存在する。意図された場合も多いが、著作成立の後に多くの写本が作成され、また、版本についても版が重ねられることなどもその要因となる。

一方、同名異書も多い。当館著作典拠ファイル中には、「貝つくし」という作品が2つ存在するが、一方の分類は「本草」、もう一方は「和歌」である。

また、「今昔物語集」の別書名「宇治大納言物語」はよく知られているが、著作典拠ファイル中には、同名の「宇治大納言物語」（wid 668）があり、その他にも「世継物語」（wid 528336）の別書名として、また、「宇治拾遺物語」（wid 657）の諸本の外題の中にも同じ書名が見られる。

これらについて、異名同書を含む同じ内容の資料を著作データにより集中させ、標目としての統一性・一貫性を維持し、かつ異なる書名からの検索を可能にするために、著作典拠ファイルを用意し、典拠コントロールを行っている。

（2）著者

著者についても一人の人物が複数の名称を持ち、著作のジャンル・執筆時期により使い分けている例が多くみられる。例えば、戯作者山東京伝（aid 222173）は、絵師としては北尾政演の名称を用いている。曲亭馬琴（aid 154303）が、著作堂、玄堂、蓑笠、曲亭等の名称の使い分けを自ら記した文章もある。

同名異人は多く存在し、また、浮世絵師・役者などのように同一の名称を代々伝えていることもある。それらの名称を人物ごとに整理し、その人物の著作をとりまとめ、別称からも検索できるようにすることが必要である。

所蔵和古書目録のみではなく、日本古典籍総合目録のデータベース全体における、典拠コントロールの意義は大きいと考えられる。

〈 書誌レコードの作成単位 〉

（ → 作成要領1. 4, 付表4 及び 別紙3, 4(1)(2) ）

（1）個別資料ごと

個々の、書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料ごとに書誌レコードを作成する。これは、同版ごとに書誌記述を共有できる現代の資料とは異なる、次のような和（漢）古書の特徴によるものである。

- ・長く伝来する間にその装丁の特徴から、冊数、大きさ、装丁等様々な改変が行われる可能性があり、手元の資料のみからでは、他の資料との同定識別等の判断が困難であること。さらに書入れや蔵書印等が付加されること。
- ・同版である各伝本に相違があること。同一の版本を用いても、刷り毎に部分的な省略（「優曇華物語」等）や入れ木による修訂が行われる場合があり、料紙が異なることもある。したがって、版の特定が困難である上に、刷りによる差異を考

慮する必要がある。

- ・これらの違いが本文・内容に及ぶこともある。

(2) 著作単位

資料中に出現する著作の単位ごとに、レコードを作成する。その単位の認定は、主として『国書総目録』各項目のデータを著作とした典拠ファイルによるものである。*

① 資料の多くは1著作に対応する単位であるが、その場合は1件のレコードを作成する。複数冊のものであってもひとまとまりと考え、また、同じ著作の部分であるならば、下記のように書名が途中で変わっても1件のレコードとする。

- ・巖島団会（岡田清編 wid12102）後半5巻の書名は巖島宝物団会

- ・道中膝栗毛（十返舎一九作・画 wid47507）

続編に金毘羅参詣・宮島参詣・木曾街道など（巻頭書名も各々異なる）

② 叢書とその細目、合写・合刻・合綴を階層構造として表現

一方、1つの資料の中に複数の著作に対応する部分があるときは、全体に対応するレコードに加えて、その部分ごとのレコードを作成する。さらに書誌に現れる叢書、合刻などの著作間の関係を書誌構造としてとらえ、書誌レコードを相互に関連づけ、その種別を表示する。

* 現在、著作については、『国書総目録』の項目の単位を尊重し、原則としてそのまま1つの著作として扱う事としている。『国書総目録』は、凡例にあるように「すべて同一書と認められるものは、一括して一項目とした」とあり、例えば、FRBR（Functional Requirements for Bibliographic Records）にいう、work（著作）—expression（表現形）—manifestation（体現形）—item（個別資料）の概念とはずれる場合も多く、改題本の前後あるいは江戸版と上方版が別項目となっていることなどが例としてあげられる。本来一括すべきと考えた複数の項目を一部作業の際統合したこともあるが、大半は現在も別項目のままでし、記録のみを残している。なお、例としてあげた「道中膝栗毛」は『国書総目録』で各街道等を部編としてとらえたひとまとまりとなっている。

〈 書誌事項の採録 〉

・記載書名

（→ 作成要領3.4）

ごく一部の簡略化されたものを除いて、全ての記載書名（表記・よみ）をその記載箇所とともに採録する。一般に行う、本タイトルの決定やその他の書名の注記は行わず、全てを同レベルに記録する。代表の書名としては、著作典拠ファイル内の該当著作の一書名を前提としている。記載書名の採録により、多様な書名からの検索を可能にしている。

・出版事項

（→ 作成要領3.8）

出版年は、最新のものを記録し、それに対応する出版事項を記載する、主たる出版者を選択することはせず、全ての書肆名を出版地とともに記録する。ただし、地名について記載がない場合補記はせず、書肆名のみを記録する。

最新の出版事項以前の版の情報等は注記する。出版年と見なされる序年・跋年について

も必要であるならば注記に記録するにとどめ、また、出版年の推定も行わない。

・補記

(→ 作成要領 1. 5. 4)

原則として、補記は行わない。一般に行う、出版・書写に関する補記についてだけではなく、書名についても記載されているものを記録するのみで、書名が全くない場合も補記することはしない。既存の、あるいは必要に応じて新規に作成した著作レコードとのリンクを形成することにより、書名等の記入がなくても検索等を保障する。

なお、記載著者名の役割のみ、補記を行うことができる (→ 作成要領 3. 5. 2)。

III. 今後の展望

古典籍総合目録の書誌レコードは、各古典籍所蔵機関作成の様々な形式の目録データの項目を入力することが可能であり、典拠ファイルの共有も可能である。

典拠ファイルについては、2011 年度から、国立情報学研究所 NACSIS-CAT での和古書書誌にかかる、統一書名典拠作成において、当館著作典拠ファイルを参照し、その作成単位や統一書名を採用し、著作 ID を付記することとなった。また、当館からは、国書データを中心とした著作典拠データの誤りの修正を行うことで協力している。

今後も、著作典拠を核とする、多くの機関による相互の結びつきが実現し、当館および各機関の蓄積してきた古典籍にかかる情報がさらに有効に利用されることを目指したいと考えている。

また、画像公開については、2013 年度に開始した「日本語の歴史的典籍の国際共同ネットワーク構築計画」の一環として、引き続き作業を進め、さらに多くの画像の提供を行っていく予定である。

この計画は、当館の「古典籍共同研究事業センター」（「古典籍データベース事業センター」として 2013 年度発足、2014 年度改組）を中心に進められており、日本古典籍約 30 万点の画像をその書誌データとともに収集・公開し、さらにその画像を利用して国際共同研究を推進するというものである。収集の対象は、国内 20 の拠点大学が所蔵する日本古典籍を中心とし、分野は国文学のみならず、歴史・地理・芸術・経済、さらには医学・理学等の全分野に及ぶものである。収集は 2015 年度よりスタートした。

IV. 和古書データ作成に向けて

まず、当館所蔵和古書の概要について説明を行い、次いで当館「日本古典籍書誌レコード作成要領」に沿って、レコードの記録方法を解説する。作成要領には省略されている和古書メディア情報（別紙 6）についてもここで説明する。なお、和古書データで使用するコード等については、便宜のため作成要領本文中に枠を設けて挿入した。

また、別紙の最後に、「NCR87R3、NACSIS-CAT コーディングマニュアル、国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領項目対照表」（別紙 7）を付した。

(→ 作成要領 及び 別紙 5, 6, 7)

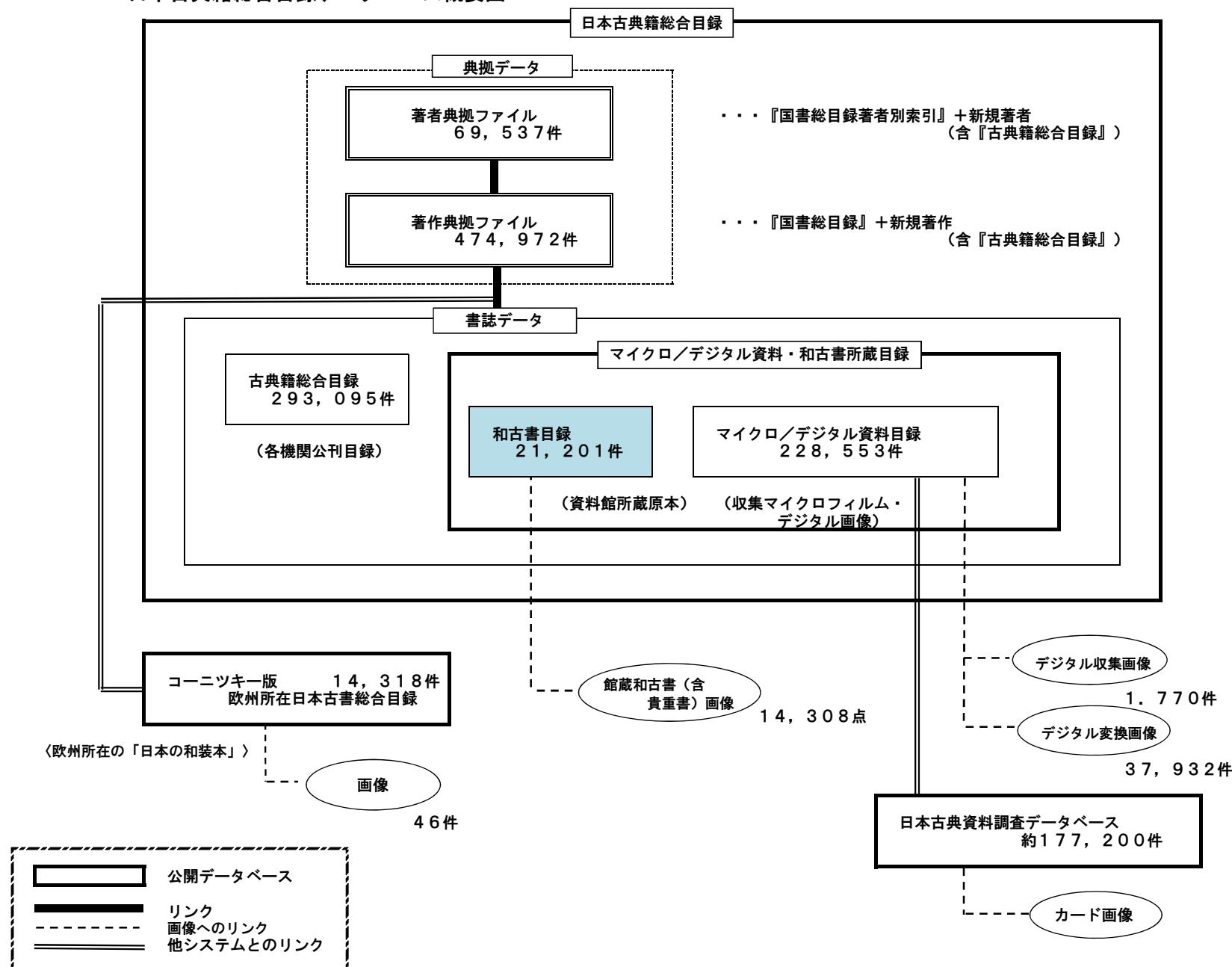
以上

別紙一覧

別紙 1	日本古典籍総合目録データベース概要	p.8
別紙 2	日本古典籍総合目録の典拠コントロール概要	p.9
別紙 3	日本古典籍総合目録の書誌作成単位について	p.10
別紙 4	構造のある書誌の例	p.11-p.12
別紙 5	和古書目録書誌データ入力項目一覧	p.13-p.14
別紙 6	和古書メディア情報の記入について	p.15-p.16
別紙 7	NCR87R3、NACSIS-CAT コーディングマニュアル、 国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領 項目対照表	p.17-p.22

平成28年1月5日現在

日本古典籍総合目録データベース概要図



日本古典籍総合目録データベースの典拠コントロール概要

別紙 2

(著作典拠ファイル)

WID : 13605
【書名】詠歌大概抄（えいがたいがいしょう）K1
【巻冊】六巻
【角書】細川幽斎
【別書名】
[1] 詠歌大概聞書（えいがたいがいききがき）
[2] 大綱抄（たいこうしょう）
[3] 大綱記（たいこうき）
【分類】歌学 注釈
【著者名】（著作著者名表リンク）
[1] 三条西／実枝（さんじょうにし／さねき）講 著者へ
[2] 細川／幽斎（ほそかわ／ゆうさい）編 著者へ
【成立】天正一四奥書
【親著作表リンク】
三部抄之抄（さんぶしょうのしょう） 著作へ
和歌七部之抄（わかしちぶのしょう） 著作へ
【著作備考】「叢書の内」
【著作種別】J
【書誌】
詠歌大概抄 寛文8 刊 宣長記念 書誌へ
:

(著作典拠ファイル)

AID : 484968
【著者名】細川／幽斎（ほそかわ／ゆうさい）K1
【別称】
[1] 長岡／（ながおか／）
[2] 藤孝（ふじたか）
[3] 玄旨（げんし）
[4] 兵部（ひょうぶ）
[5] 細川／藤孝（ほそかわ／ふじたか）
[6] 細川／玄旨（ほそかわ／げんし）
[7] 幽斎（ゆうさい）
[8] 長岡／兵部（ながおか／ひょうぶ）
【著作】
伊勢物語聞書（いせものがたりききがき）
:
伊勢物語／二条家清濁読曲秘訣（いせものがたり／にじょうけ...
:

BID : 200007338
【記載書名】
[1] 細川幽斎詠歌大概抄（ほそかわゆうさいえいがたいがいしょう）外
[2] 詠歌大概抄（えいがたいがい）内
[3] 大綱抄（たいがいしょう）柱
【巻数】2巻
【刊写】刊
【出版事項】
[1] 寛文8 風月／庄左衛門尉
【形態】2冊, 27. 2×19. 5cm
【構造属性】単独
【書誌注記】〈形〉3冊本の合綴。
〈書〉書入れあり。
〈伝〉（印記）「冰心堂蔵梓」
【和古書メディア】
タ201830000-0000
【著作】
詠歌大概抄（えいがたいがいしょう）

BID : 200000952
【記載書名】
[1] 秀歌之躰大略（しゅうかのていたいりやく）内
[2] 大綱抄（たいこうしょう）奥中
【刊写】写
【形態】大
【残欠】下巻存
【書誌構造】単独
【書誌注記】〈書〉朱書きあり。
【和古書メディア】
1101120000-0000
【著作】
詠歌大概抄（えいがたいがいしょう）著作へ

(マイクロ資料目録書誌データ)

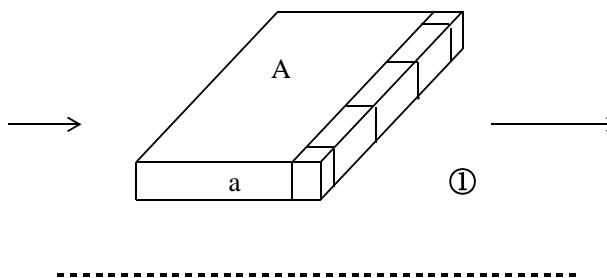
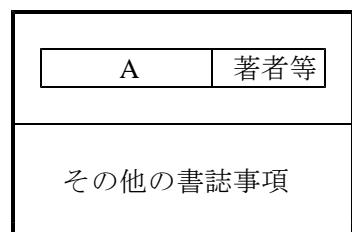
(古典籍総合目録書誌データ)

WID : 340761
【書名】清見記（せいいけんき）K2
【巻冊】一冊
【分類】歌集
【著者名】（著作著者名表リンク）
[1] 三光院／実枝（さんこういん／さねき）
〔三条西／実澄（さんじょうにし／さねづみ）別称No. 7〕
【著作種別】J
【書誌】
清見記 写 国文研 書誌へ
:

日本古典籍総合目録の書誌作成単位について

一般的な目録データ

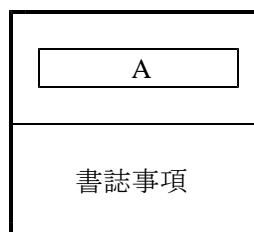
《 単独 》



和古書目録書誌データ

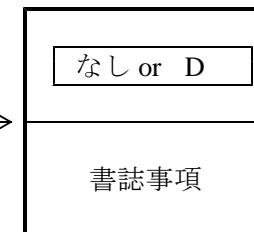
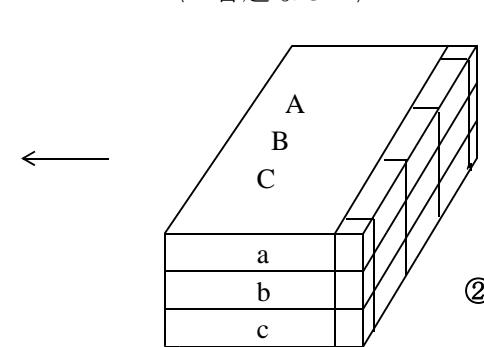
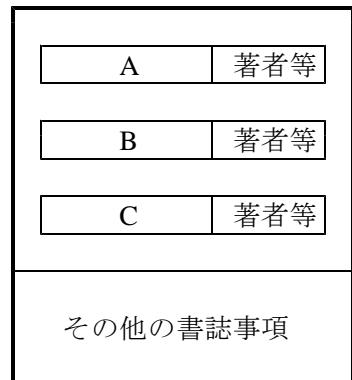
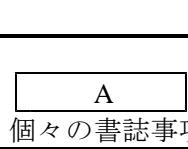
(古典籍総合目録書誌データ)

↔ 著作 a

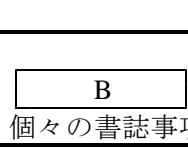


《 合集（合刻・合写・合綴） 》

< 合題なし >

著作リンク
なし

↔ 著作 a

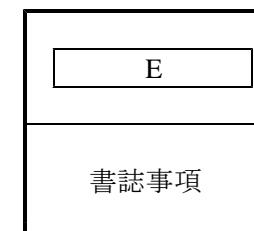
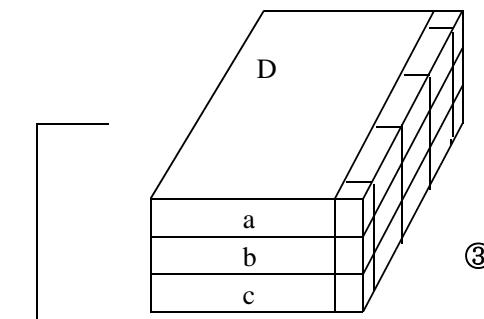


↔ 著作 b

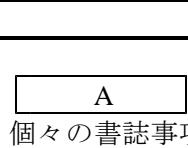


↔ 著作 c

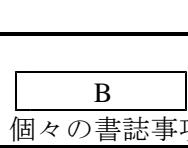
< 合題あり >



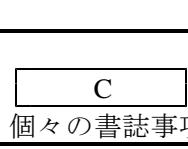
↔ 著作 e



↔ 著作 a

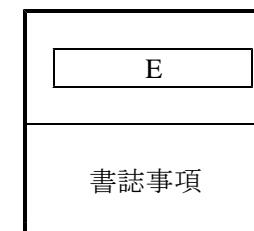
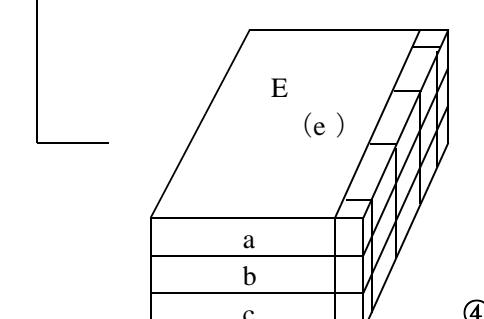


↔ 著作 b

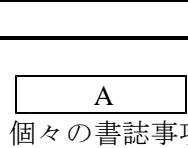


↔ 著作 c

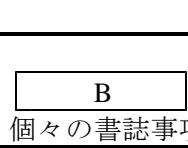
《 双書 》



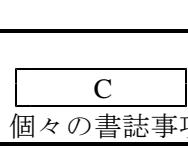
↔ 著作 e



↔ 著作 a



↔ 著作 b



↔ 著作 c

[例]

- ① 源氏物語
- ② おあん物語・おきく物語（合題なし）
- ③ おあん物語・おきく物語（合題：二女物語）
- ④ 三代集

BID : 200000205

【記載書名】

[1] 三代和歌集／校本(さんだいわかしゅう／こうほん) 見

【刊写】刊

【出版事項】

[1] 嘉永 6 出雲寺／文治郎(京都),
 河内屋／喜兵衛(大坂),
 永樂屋／東四郎(名古屋),
 須原屋／茂兵衛(江戸)

【形態】中

【冊数】5 冊

【残欠】拾遺和歌集上巻第一～一〇欠

【書誌構造】叢書

【子書誌】

古今和歌集 刊 W 国文研初雁

後撰和歌集 刊 W 国文研初雁

拾遺和歌集 刊 W 国文研初雁

【和古書メディア】

1202500001-0005

【著作】 WID : 211052
 三代集(さんだいしゅう)

子 1

BID : 200000206

【記載書名】

[1] 古今和歌集(こきんわかしゅう) 内
 [2] 古今和歌集(こきんわかしゅう) 序首
 [3] 古今和歌集(こきんわかしゅう) 序中

【刊写】刊

【ソート年】

【形態】中

【冊数】2 冊

【書誌構造内連番】1

【親書誌】

三代和歌集／校本 嘉永 6 刊 W 国文研初雁

【和古書メディア】

1202500001-0002

【著作】 WID : 2664
 古今和歌集(こきんわかしゅう)

構造のある書誌の例

別紙 4 (1)

《 叢書 》

子 2

子 3

BID : 200000207

【記載書名】

[1] 後撰和歌集(ごせんわかしゅう) 内
 [2] 後撰和謡集(ごせんわかしゅう) 外
 [3] 後撰咏謡集(ごせんわかしゅう) 外

【刊写】刊

【形態】中

【冊数】2 冊

【書誌構造内連番】2

【親書誌】

三代和歌集／校本 嘉永 6 刊 W 国文研初雁

【和古書メディア】

1202500003-0004

【著作】 WID : 2971
 後撰和歌集(ごせんわかしゅう)

BID : 200000208

【記載書名】

[1] 拾遺和歌集(しゅういわかしゅう) 内

【刊写】刊

【ソート年】

【形態】中

【冊数】1 冊

【残欠】卷第一～一〇欠

【書誌構造内連番】3

【親書誌】

三代和歌集／校本 嘉永 6 刊 W 国文研初雁

【和古書メディア】

1202500005-0000

【著作】 WID : 32940
 拾遺和歌集(しゅういわかしゅう)

BID : 200003988
【刊写】刊
【出版事項】
[1] 須原屋／茂兵衛〈江戸〉、 須原屋／伊八〈江戸〉、 河内屋／喜兵衛〈大坂〉、 淺倉屋／久兵衛〈東都〉
【形態】大 【冊数】1冊 【書誌構造】合刻 【子書誌】 おあむ物語 刊 W 国文研 おきく物語 刊 W 国文研 【書誌注記】〈叢〉梅畦叢書。 【和古書メディア】 ナ 4 0 0 4 9 0 0 0 0 - 0 0 0 0

子 1

子 2

親

BID : 200002557
【刊写】混
【形態】半
【冊数】1冊
【書誌構造】合綴
【子書誌】 ひなつくは 写 W 国文研 誹学校 刊 W 国文研 【和古書メディア】 ナ 3 0 0 1 4 0 0 0 0 - 0 0 0 0

子 1

《 合刻 》

BID : 200003989
【記載書名】
[1] おあむ物語(おあんものがたり) 内 [2] 於安無物語(おあんものがたり) 見 [3] おあんものかたり(おあんものがたり) 外 [4] 御庵物語(おあんものがたり) 跋首 [5] おあん(おあん) 柱
【冊数】1冊
【書誌構造内連番】1
【親書誌】 刊 W 国文研 【和古書メディア】 ナ 4 0 0 4 9 0 0 0 0 - 0 0 0 0
【著作】 WID : 953 おあん物語(おあんものがたり)

BID : 200003990
【記載書名】
[1] おきく物語(おきくものがたり) 内 [2] 於幾久物語(おきくものがたり) 見 [3] おきくものかたり(おきくものがたり) 外 [4] おきく(おきく) 柱 [5] 阿菊物語(おきくものがたり) 跋中
【冊数】1冊
【書誌構造内連番】2
【親書誌】 刊 W 国文研 【和古書メディア】 ナ 4 0 0 4 9 0 0 0 0 - 0 0 0 0
【著作】 WID : 1058 おきく物語(おきくものがたり)

親

《 合綴 》

BID : 200002558
【記載書名】
[1] ひなつくは(ひなつくば) 内 [2] ひなつくは(ひなつくば) 外 [3] 郡筑波／古学(ひなつくば／こがく) 外 [4] 郡筑波(ひなつくば) 序首
【刊写】写
【書誌構造内連番】1
【親書誌】 混 W 国文研 【書誌注記】〈写〉新写本。 【和古書メディア】 ナ 3 0 0 1 4 0 0 0 0 - 0 0 0 0
【著作】 WID : 424157 ひなつくは(ひなつくば)

子 2

BID : 200002559
【記載書名】
[1] 誹学校(はいがっこう) 外 [2] 誹学校(はいがっこう) 序中
【刊写】刊
【ソート年】
【書誌構造内連番】2
【親書誌】 混 W 国文研 【和古書メディア】 ナ 3 0 0 1 4 0 0 0 0 - 0 0 0 0
【著作】 WID : 1085025 誹学校(はいがっこう)

和古書目録書誌データ入力項目一覧(データシート対応)

別紙5

和古書書誌データシート項目	条項番号		例
所蔵者情報	コレクションID(cid)	別紙6	3045000
著作とのリンク	著作id(wid) 統一書名表記 よみ 同名異書連番 著者名(よみ)	2.1.2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古典籍総合目録データベースを検索し、該当著作があつた場合 → wid記入 ・国書総目録を参照して、該当著作があつた場合 (統一書名表記 ; 国書内同名異書連番(Kn)) 作品著者名(国書著者欄) を記入 ・日本古典籍総合目録データベース(国書総目録)を検索し、該当著作がなかつた場合 → 新規著作作成へ 統一書名候補表記 統一書名候補よみ + 統一著者名候補表記(統一著者名よみ) 役割
標目書名	標目書名表記 よみ	3.3	源氏物語 げんじものがたり
記載書名	連番 記載書名表記 よみ	3.4	おそめ久松／新版歌祭文 おそめひさまつ／しんばんうたざいもん 歌合／寛政三年九月十三夜 うたあわせ／かんせいさんねんくがつじゅうさんや
記載著者名	連番 記載著者名表記 他等 役割 伝 部編等	3.5 3.6.1	山東／京傳 歌川／豊國／二世 春野／栄助 紫式部
書写事項	連番 書写者 書写年 部編等	3.7 3.6.1	本居／宣長(松阪) 書写者名(地名)[, (繰り返し)] 元号+全角数字
出版事項	連番 書肆 刊年 部編等	3.8 3.6.1	須原屋／茂兵衛(江戸), 柏原屋／清右衛門(大坂) 正徳4 書肆名(地名)[, (繰り返し)] 元号+全角数字
刊写の別		3.2	刊 or 写 or 混
巻数		3.6	巻之一～五
叢書巻号表示		3.12	第三冊
冊数		3.9	5冊

和古書目録書誌データ入力項目一覧(データシート対応)

別紙5

和古書書誌データシート項目	条項番号			例
残欠	3.11	欠	または	存
形態的事項(大きさ・丁数等)	3.10			上巻欠 10丁, 26.2×18.5cm, 大
和古書メディア	原資料請求記号 登録番号	別紙6		タ700320001-0002 171180-171184
書誌備考 書誌構造	preno ppreno cpreno	2.2	書肆構造種別(単独、叢書、合綴、合刻・合写)	(種別を選択)
書誌注記		3.13	{(注記種別)注記内容。}(繰り返し) ・同一種別中の区切りは、(カンマ) ・同一種別中の名称の列記は・(中黒丸) ・原文転記は「」(かぎかっこ)、省略は(…)	〈形〉改装。〈伝〉(印記)「残花書屋」。
業務メモ		3.14		

和古書メディア情報の記入について

1. 所蔵者・コレクション情報

所蔵者ならびにコレクションを示す情報として、該当するコレクションデータの7桁のレコード番号を付与する。

[例] 3045000 国文学研究資料館（一般）
3045003 " 初雁文庫

2. メディア情報

ここには、書誌データに対応する原資料ならびに複製媒体に関する管理情報を示す。

2. 1 和古書メディア

〈原資料請求記号〉

原資料の請求記号を、15桁固定長で記入する。

タ	2	0	2	2	4	0	0	0	0	-	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2桁 …分類記号

4桁 …図書番号

4桁 …先頭分冊番号

1桁 … ‘-’ (ハイフン)

4桁 …最終分冊番号

とし、各ブロック右詰左ゼロ埋めとする。

また、分冊番号が無い場合も- (ハイフン)、ゼロ埋めは記入する。

[例] タ 2 0 2 2 4 0 0 0 0 - 0 0 0 0 分冊番号が無い場合
タ 7 0 0 3 2 0 0 0 1 - 0 0 0 2 2分冊の場合
9 9 0 0 3 2 0 0 0 1 - 0 0 0 2 "

なお、複数冊に対応する書誌レコードが複数含まれる場合、請求記号はそのレコードが属する分冊番号のみを記入する。

[例] タ 7 0 0 3 2 0 0 0 2 - 0 0 0 0 2分冊目に対応する書誌レコードの場合

〈登録番号〉

原資料の登録番号を記入する。数字のゼロ埋めはしない。

複数の場合は、二連番または飛び番は・（中黒）で、三連番以上は - （ハイフン）で区切り記入する。

[例] 115749
104788・104789
103938-103952
122534-122537・137459

NCR87R3 *、NACSIS-CATコーディングマニュアル、国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領 項目対照表

*NCR：日本目録規則改訂3版 第2・3章・用語解説

日本目録規則(NCR87R3)	NACSIS-CAT コーディングマニュアル	日本古典籍書誌レコード作成要領
規則の対象資料		1. 通則
和古書、漢籍 第2章 図書...印刷された日本語の図書(和漢古書に特有の規定を含み洋書にも適用可) 第3章 書写資料...書写された資料・手稿(和漢古書に特有のを含み洋書にも適用可)	和漢古書及びそれに準じて扱った方がよい資料	日本古典籍総合目録データベースの書誌ファイルの入力データとして作成 当館が収集する日本の古典籍(江戸時代以前の写本・版本)→和古書・マイクロ および 古典籍総合目録データ
適用範囲	1. 適用範囲	1. 1 対象となる資料の範囲
原則として、和古書は江戸時代まで、漢籍は辛亥革命以前のもの (和古書)日本人の編著書で、日本文で書かれ、日本で、主として江戸時代まで(1868年以前)に書写・刊行された資料。 (漢籍)中国人の編著書で、中国文で書かれ、主として辛亥革命(1911年)以前に著述、刊行された資料。日本で刊行されたものをも含む。	原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のもの ただし、幕末・清朝末期のもので近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものは、和漢古書扱いしなくてもよい (→版毎の書誌レコードを共有) また、明治期／民国以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などは和漢古書扱い	原則として、慶應4年(1868年)9月明治改元までに成立し、日本人が著編撰訳等した著作の古典籍(写本・版本) この範囲で明治期の整版本・木活字本等及び明治以降に書写した写本(新写本)も含む 典籍(冊子・巻子本・帖装等)、ただし特殊形態資料も含む 日本人が手を加えていない漢籍は和刻本でも対照としない (→「和古書作業用マニュアル」で扱う)
書誌レコード作成単位①		1. 4 レコード作成の単位
和古書、漢籍については、1書誌1所蔵(これまでには、1書誌に複数の所蔵が対応) 和古書、漢籍については、個別資料ごとに別の記述を作成する。	1書誌1所蔵、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成 その旨を最初の注記として記録	1書誌1所蔵 原則として書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料全体についての書誌的単位 (1)ひとまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、そのまとまりをレコード作成の単位とする (2)複数のまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、その各々をレコード作成の単位とする なお、刊年、書肆等から同版と考えられるものがある場合でも、各々をレコード作成の単位とする
書誌レコード作成単位②	(同)	本としてのまとまり(書誌単位)及び著作単位 単独の場合は、書誌・著作の単位一致で1件のみ 叢書の場合、全体で1件と含まれる個々の著作単位とする 合刻・合写・合綴も叢書と同様 書誌構造を持ち、レコードの関連づけ
固有のタイトルを有する単独に刊行された図書についてレコードを作成 複数の著作が含まれる場合も、原則としては1件のみ (→タイトル参照) なおその場合、それぞれの著作を記述の本体とすることも可(任意規定)		

統一タイトル	9. 統一タイトルの取扱い	2. 1 著作との照合
タイトル標目については、無著者名古典、聖典および音楽作品の範囲内で統一標目(統一タイトル)を用いることができる(任意規定)	日本語・中国語の古典作品については、統一タイトルを記録し、また統一書名典拠レコードを作成してリンク形成することができる 和漢古書における著作単位での集中の重要性を考慮し、著者を有する古典作品にも適用 「日本古典籍総合目録データベース」に収録されている日本語の古典作品は、同データベースの著作レコード中の「統一書名」をそのままタイトルとして採用する。付記事項として「KOTEN:」に続けて「著作ID」(著作レコード番号)を記録する。 著作レコード中に「著者」が存在する場合は、「著者」を最初の付記事項としてまず記録し、続けて「著作ID」を記録す	該当する著作典拠ファイルの統一書名
著者については、典拠ファイルによる著者標目を付与	著者については、典拠ファイルによる著者標目を付与	著作にリンクしている著者の統一著者名及び作品著者名
各書誌的事項の情報源	2. 各書誌的事項の情報源	
和古書、漢籍については、情報源の選択に当たり、時代、ジャンルあるいは造本等の事情を考慮する(優先順位はなし)	情報源として有効である箇所およびその優先順位は、時代・分野・更には記述対象資料により異なるので、資料全体を情報源として検討 各書誌的事項において比較的有効である情報源は、下記の通り	書誌事項は資料自体(付表2) 著作・著者レコードは参考資料も含む
ア) タイトルと責任表示(漢籍は巻頭を優先) (1)巻頭、題簽、表紙 (2)目首、自序、自跋、巻末 (3)奥付、見返し、扉、版心、著者・編者以外の序跋 (4)小口書、識語等 イ)版……なし(該当条項参照) ウ)出版・頒布等……刊記、奥付、見返し、扉、版心、序、跋、識語等 エ)形態……その記述対象から オ)シリーズ……その記述対象から カ)注記……どこからでもよい	1) タイトルと責任表示に関する事項 一 ① 巷頭、題簽、外題 ② 目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む) ③ 奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等 2) 出版・頒布等に関する事項 一刊記、奥書、見返し、扉、序、跋、識語等 3) 形態に関する事項 一 その資料から 4) 書誌構造リンク 一 その資料から 5) 注記 一 どこからでもよい	
記述対象図書によるべき情報源がない場合は、参考資料等調査し、必要な書誌的事項に関する情報を入手し記録(補記)	記述対象図書によるべき情報源がない場合やあっても不適当な場合は、参考資料等調査し、必要な書誌的事項に関する情報を入手し記録(補記) 必要があれば注記にその情報源を示す	これまで補記はなし 今後は標目書名・記載著者名役割に補記を可とする予定

タイトル 代表の書名を所定の情報源から採録(本タイトル) 本タイトルとしなかった書名は注記できる 複数の著作が含まれる場合、1件のデータを作成 総合タイトルあり→本タイトル 総合タイトルなし→個々のタイトル表示あり→例挙して本タイトル (別紙2) 書名の記載がない場合は、適切なタイトルを補記	代表の書名を所定の情報源から採録(本タイトル) 検索の便宜等、必要に応じて、記載等の書名を記録することができる (同)	3. 3 標目書名 〈標目書名〉(当面記入しない) … 原則として、対応する著作の統一書名を資料の代表書名と見なす ただし、統一書名が資料を表すのに不十分かつ、記載書名もないときには、目録作成者が決定した標目書名を記入 合綴・合刻・合写の親書誌については記入の場合あり 〈記載書名〉 原本中に記載の書名を部所とともにすべて採録 合題(総合タイトル)は親データの記載書名として採録 標目書名を参考資料により記入する場合は補記 記載書名の補記はしない
書誌的巻数 和古書、漢籍については、本タイトルの一部として末尾に書誌的巻数をスペースに続けてアラビア数字で記録 欠本の場合は完本の巻数の後に記述対象の現存巻数を丸がっこに入れて「存n巻」と付記。存卷ないし欠巻の内容や残欠の状況については注記する 完全本巻数不明のときは、()に入れて現存巻数のみ	タイトルの一部として、書誌的巻数を、アラビア数字で記録 不完全本のときは、完全本の巻数に続けて()に入れて現存巻数を付記 完全本巻数不明のときは、()に入れて現存巻数のみ 一巻(巻立てがない)の場合は記録しなくてもよい	3. 6 卷次 3. 11 残欠表示 完全本の場合、そろいの、内容としての巻を、原本から巻次に記入 不完全本の場合は残欠表示に記入
著編者(責任表示) 所定の情報源に記載の著者名を採録 和古書、漢籍については、記載がない場合、参考資料等調査し補記(これまでは注記) 複数の著者を記載のとき、役割ごとに2人まではそのまま採録し、3人以上のときは主たるものととり、[ほか]とする	(同) 記載がない場合、参考資料等調査し補記 (同)	3. 5 記載著者名 〈記載著者名〉 原本記載の著者名をその役割等とともにそのまま記載、ひとりについて複数の異なる記載がある場合は選択 役割の補記はあり 著者の記載がない場合は記入しない 〈複数の著者〉 役割毎に主要な3人まで(4人目以降は省略)記録、「等」とするが、場合により省略しない(4人の句集など) 〈伝聞・推定の著者〉 原本に著者名とともに著者が言い伝えによることを示す「伝」等の記載がある場合は、「伝」を記入 〈部編等の注記〉 資料が複数の部分に分れ各々著者が異なる場合は、該当する部編名等を著者名とともに記入 〈国名・中国王朝名〉 原本記載の著者名(外国人)に国名(蘭・英等)、中国王朝名(唐・清等)が付されている場合は()に入れて前に記入
漢籍のとき、()に入れて王朝名を著者名の前に付記してよい	漢籍のとき、()に入れて王朝名を著者名の前に付記してよい	

版表示		
和古書、漢籍については、版木の異同について判断できた場合に記録。省略した場合は資料中の版に関する語句を注記 書写資料では、いくつかある稿の区別等のため、識別できた場合に記載	和漢古書については記録しない 同版ごとの記述を行わないこと、的確な判断や記入が困難等の理由による。必要に応じて注記 和漢古書については記録しない	必要に応じて版注記に記録 必要に応じて書写注記等に記録
出版事項(第2章)		3.8 出版事項
出版地、出版者、出版年 複数ある場合、出版地ごとに1組を採録 1つの出版地に複数の出版者があるときは、顕著なもの、最後のものの順で採録、[ほか]とする。 (これまで複数ある場合、1つの組を選択 和古書を記述する場合は、奥付に表示されている最後の出版者か、見返しに表示されている最初の出版者を記録)	出版地、出版者、出版年 複数ある場合、出版地ごとに1組を採録 1つの出版地に複数の出版者があるときは、顕著なもの、最後のものの順で採録、[ほか]とする。 なお、組は4つまで、出版者も複数採録可。	出版者、出版地、出版年 すべての出版地、出版者を採録
〈出版地〉 原則として市町村名をとる 古地名は、表示されている出版地をそのまま記載、都道府県名を必要に応じて補記 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版地不明]とする	〈出版地〉 表示されている出版地をそのまま記載、必要に応じて、当時の都市名・国名を付記または補記 地名の別称のときは通行の地名を補記 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版地不明]とする	〈出版地〉 表示されている出版地をそのまま記載、ただし都市名のレベルで記載するので、町等の下位レベルのとき、都市名に置換する、このとき、京・大坂・江戸のときはこの形を用いる 表示されていない場合は記録しない
〈出版者〉 表示されている出版者名をそのまま記録 明治初期までの和古書の出版者は個人名書肆名ともそのまま記録(これまで屋号のあるものは屋号に続けてのみ記録) 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版者不明]とする	〈出版者〉 表示されている出版者を記録 明治初期までの和古書の出版者は個人名、屋号の有無に関わらずそのまま記載 表示されていない場合、同一書の他の諸本や信頼できる参考資料があれば補記も可、不明の場合は、[出版者不明]とする	〈出版者〉 表示されている出版者を記録 個人名、書肆名ともにそのまま記載 表示されていない場合は記録しない
〈出版年〉 和古書、漢籍については、刊行年を「刊」という用語を付して記録する。刊行年とは別に印行年が判明した場合、「印」という用語を付して丸括弧(())に入れて付記する。印行年のみが判明した場合は「印」という用語を付して記録する。どちらか不明の時は年のみを記録する。表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版年不明]も可 出版年がない場合は序跋年を採録 原則として元号+数字で西暦年の補記 元号+干支は年に置換 干支のみは、わかれば推定の形で記入	〈出版年〉 刊行年が判明した場合、「刊」という用語を付して記録、別に印行年が判明した場合は、「印」という用語を付して丸括弧(())に入れて付記、印行年のみが判明した場合は、「印」という用語を付して記録。刊か印か不明のときは年のみ記録 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版年不明]も可 出版年がない場合は序跋年を採録 原則として元号+数字で西暦年の補記 元号+干支は年に置換 干支のみは、わかれば推定の形で記入	〈出版年〉 刊年はその本が出版された年とする 従って再刻、後修、後刷の場合は、再刻等された年を刊年とする、その際、以前の出版に関わる年は〈版に関する注記〉に記入 表示されていない場合は記録しない 序跋年は必要に応じて注記に記載 元号+年数 元号+干支は元号+年数に置換 干支のみは注記

書写事項(第3章)		3. 7 書写事項
製作事項 書写地、書写者、書写年	製作地(=書写地)、製作者(=書写者)、製作者(=書写者)	書写者、書写地、書写年 原本から転記、明確な記載(最終書写記等)がある場合のみ 転写本の場合の以前の書写に関する事項等は注記
書写地、書写年については、出版地、出版年と同様 自筆・転写に関わらず、書写者を採録 「写」をして記録、自筆と判明した場合は「自筆」という用語とともに記録する 不明の場合は、[書写者不明]とする 書写者(=著者)は記録せず、必要に応じて注記	自筆・転写に関わらず、書写者を採録 自筆の場合は「自筆」、転写の場合は「写」という用語とともに記録、自筆か転写か不明の場合は、書写者名のみ記録	自筆・転写に関わらず、書写者を採録 自筆の場合は注記
形態に関する事項		
〈冊数〉 1冊の場合はページ(丁)数、複数冊の場合は冊数を記録 ほかに、軸(巻もの)・舗(畳みもの)	現在の形態について記述、原装の形態については必要に応じ注記する。 〈員数〉 単位として、「冊」の他にNCR87R2第10章別表・付「特定資料種別の数量表示(単位名称・助数詞)について」の単位も可 単位:冊・軸・枚・舗・帖・通……	現在の形態について記述、原装の形態については必要に応じ注記する。 3. 9 数量 数量を原本から記入 「冊」等の単位を用いて数字+単位で記入 単位:冊・帖・軸・幅・枚・通・舗…… その他詳細情報(折・面・曲・綴・帙等)については注記 3. 10 形態的事項 〈丁(葉)数〉 1冊の場合、原本から記入 合刻・合綴等の子が1冊未満のとき記入
〈大きさ〉 和古書、漢籍については、高さをcm単位で、小数点以下1桁まで記録 縦長・横長・枠型本は縦×横cm (任)和古書、漢籍については常に縦、横の長さを「×」印で結んで記録する。また、大きさを書型に対応させた用語等を丸がっこに入れて記録することができる。 (別)大きさを書型に対応させた用語等により記録 巻ものは料紙の高さ 畳ものは広げて縦×横cm	〈大きさ〉 センチメートルの単位で小数点以下1桁まで記録することができる ふつうの冊子本等についても、縦・横の順でその長さを「×」で結んで記録することができる また、美濃判等、大きさを紙型に対応させた用語等を丸括弧(())に入れて付記することができる。	〈大きさ〉 センチメートル単位で測り、小数点第1位まで記入 (1)縦×横 を記入する (2)大・半・中・小等に該当するものについては、両方記入 特大・特小・枠・縦・横に該当するものについては、縦×横、紙型の両方を記入 (3)巻子本等は、料紙の幅(高さ) (4)畳物については畳んだ大きさの縦×横

注記		3. 13 注記
下記の特定事項に属さない注記	書誌作成単位に関する注記	必要に応じて、前項までの各記述項目に対する説明等の注記を原本、参考資料等から記入 なお、貴重書及びそれに準ずるものについては、できる限り詳しく記入
タイトルに関する注記	写本に関する注記	〈系〉(系統注記)
責任表示に関する注記	通則に関する注記(所定以外の情報源等)	〈著〉(著者に関する注記)
版および書誌的来歴に関する注記	書誌学的通称名、本文の系統等に関する注記	〈版〉(出版に関する注記)
出版・頒布・製作等に関する注記	タイトルに関する注記	〈写〉(書写に関する注記)
形態に関する注記	責任表示に関する注記	〈序〉(序跋注記)
内容に関する注記	出版に関する注記	〈形〉(形態注記)
注・訓点・識語・書き入れ等に関する注記	版式(版面)に関する注記	〈奥〉(奥書・識語注記)
伝来に関する注記	巻冊次と残次の注記	〈書〉(書き入れ・校合注記)
	装丁に関する注記	〈伝〉(伝来注記)
	印記に関する注記	〈叢〉(叢書注記)
	その他(注、訓点、節付記号、識語、書き入れ、付箋、等)	〈般〉(一般注記) 〈備〉(備考)

国文学研究資料館 日本古典籍書誌レコード作成要領

第1次 2004.12.1

2012.6.6 改

(2011.12 和古書データ使用コード等挿入)

1. 通則	p. 2	3. 6. 1 卷次の記入 15
1. 1 対象となる資料の範囲 2		3. 6. 2 原次の記入 16
1. 2 データ項目 3		3. 7 書写事項 16
1. 3 情報源 3		3. 7. 1 書写者 16
1. 4 レコード作成の単位 3		3. 7. 2 書写地 17
1. 5 記録の方法 5		3. 7. 3 書写年 17
1. 5. 1 使用文字 5		3. 7. 4 複数の書写事項 17
1. 5. 2 よみの表記 5		3. 8 出版事項 18
1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字 5		3. 8. 1 出版者 18
1. 5. 4 補記 5		3. 8. 1. 1 複数の書肆名 18
2. データベースの特徴	p. 5	3. 8. 2 出版地 18
2. 1 著作とのリンク 5		3. 8. 3 出版年 19
2. 1. 1 典拠コントロール 5		3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年 19
2. 1. 2 著作とのリンク 6		3. 8. 4 複数の出版事項 19
2. 1. 3 統一書名 6		3. 9 数量 20
2. 1. 4 著作の著者 6		3. 10 形態的事項 20
2. 1. 4. 1 統一著者名 7		3. 10. 1 形態的事項の記入 21
2. 1. 4. 2 作品著者名 7		3. 11 残欠表示 22
2. 2 書誌構造 8		3. 12 叢書巻号表示 22
3. データ記入要領	p. 9	3. 13 注記 22
3. 1 キーワード 9		3. 13. 1 系統注記 23
3. 2 刊・写の別 9		3. 13. 2 著者に関する注記 23
3. 3 標目書名 9		3. 13. 3 出版に関する注記 24
3. 4 記載書名 9		3. 13. 4 書写に関する注記 24
3. 4. 1 記載書名のよみ 9		3. 13. 5 序跋注記 25
3. 4. 2 書名中の区切り記号 10		3. 13. 6 形態注記 25
3. 4. 3 不明な部分のある書名 10		3. 13. 7 奥書・識語注記 26
3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名 10		3. 13. 8 書入れ・校合注記 26
3. 4. 5 記載箇所 10		3. 13. 9 伝来注記 27
3. 4. 6 複数の書名 11		3. 13. 10 叢書注記 27
3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名 12		3. 13. 11 一般注記 27
3. 5 記載著者名 12		3. 13. 12 備考 28
3. 5. 1 著者名の記入 13		3. 14 業務メモ 28
3. 5. 2 著者役割 13		
3. 5. 2. 1 複数の役割表示 14		付表1 和古書目録書誌レコードデータ項目 29
3. 5. 3 複数の著者 14		付表2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報
3. 5. 3. 1 複数の著者の省略 14		源 30
3. 5. 4 著者の推定 14		付表3 叢書・合綴等のデータ項目ふり分け表 31
3. 5. 5 部編等の注記 14		付表4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの
3. 5. 6 国名・王朝名 15		作成と表示 32
3. 6 卷次 15		

1. 通則

この作成要領は、当館が所蔵する和古書の書誌事項を採録し、日本古典籍総合目録データベースの書誌ファイルの入力データ（以下和古書書誌レコードと呼ぶ）を作成するためのものである。以下、和古書書誌レコード作成の対象となる資料の範囲および記述に関する一般原則を規定する。

1. 1 対象となる資料の範囲

和古書書誌レコードは次に示した範囲の資料について作成する。

- (1) 原則として、慶応4年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
- (2) 著作の成立年代が不明であっても、慶応4年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
- (3) 上記（1）（2）に該当する著作に対応する資料のうち、和古書は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）についても対象とする。なお、明治期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
- (4) 日本人の著作は日本語以外でも含む。ただし、日本以外で改修・注・訳等を加えて出版したものは対象としない。日本在住の外国人による著作は、日本において日本語で出版された場合は含む。
- (5) 原則として、書籍を対象とするが、その他の特殊形態資料もできる限り含める。

和古書目録データベースの資料の範囲

- (1) 原則として、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
 - (2) 著作の成立年代が不明であっても、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
 - (3) (3)上記（1）（2）に該当する著作に対応する資料のうち、和古書および和刻本漢籍は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）について対象とする。また、漢籍は1912年以降の整版本・木活字本等および鈔本についても対象とする。なお、明治期、清朝末期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
- （漢籍について追加、（4）（5）は上記と同）

1. 2 データ項目

和古書書誌レコードのデータ項目は付表1「和古書目録書誌レコードデータ項目」のとおりである。

1. 3 情報源

各データ項目ごとの情報源は付表2「和古書目録書誌レコードデータ採録情報源」のとおりである。

1. 4 レコード作成の単位

和古書書誌レコードの作成は、原則として書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料（個別資料）ごとに行う。ただし、ひとまとまりの資料の中に複数の著作に対応する書誌が含まれる場合は、全体に対応するレコードに加え、各々の書誌についてもレコードを作成する。

*以下の書誌構造で示す。

叢書	複数の著作を総合して収録した著作で、全体としての書名を有する
合写	複数の著作が一つにまとめて書写されたもの 書写の時期は同時または近い時期とする 紙背文書のように、表裏の書写時期が異なる場合は、合綴扱いとする
合刻	複数の著作が一つにまとめて刊行されたもの
合綴	もともと別のまとまりの資料が、後に綴じあわされたもの

(1) ひとまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、そのまとまり全体をレコード作成の単位とする。

[例] 出雲国風土記

・文化3年刊 2冊

(この場合、1件のレコード作成を行う)

1つの著作に対応する資料が複数ある場合は、その各々をレコード作成の単位とする。

[例] 古今和歌集

・天明3年写 1冊

・万治3年刊 6冊

(この場合、2件のレコード作成を行う)

なお、出版年、書肆等から同版と考えられるものが複数ある場合でも、その各々をレコード作成の単位とする。

[例] 徒然草

・寛文10年刊 2冊 2部

(この場合、2件のレコード作成を行う)

(2) 叢書の場合、叢書全体と、その細目の各々をレコード作成の単位とする。

[例] 三代集

古今和歌集・後撰和歌集・拾遺和歌集

・嘉永6年刊 6冊

(この場合、叢書全体に対する1件のレコード(「親」レコード)

作成と、その細目の各々に対する3件のレコード(「子」レコ
ード)作成を行う)

なお、叢書の端本は叢書扱いとはせず、単独または合刻・合写の扱いとする。叢書についての情報は叢書注記に記録する。

(3) 合写・合刻の場合、そのひとまとめりの資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

[例] 消息往来と消息往来講釈の合刻

・刊 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)

作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

[例] 古今切紙、伊勢物語切紙、伊勢物語之髓脳の合写

・文久3年写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)

作成と、3件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

(4) もともと別のまとめりの資料が綴じ合わされて、ひとまとめりとなつた合綴の場合にも、その資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

[例] 万葉見安と万葉集註釈の合綴

・写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)

作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

また、資料により、これらの組み合わせが生じることがある(叢書内合刻・合綴内合写等)。叢書・合綴等の場合の具体的なデータの採り方については、付表3「叢書・合綴等

のデータ項目振り分け表」および付表4「叢書・合綴等の書誌ふり分け表」および付表4「叢書・合綴等のデータ構造およびレコードの作成と表示」を参照すること。

1. 5 記録の方法

固有名詞（書名、人名、書肆名等）・原文から引用した文は、原則として記述対象に表示されているままに記録する。それ以外は、情報源の文字にかかわらず、常用漢字等政令漢字・算用数字に統一して記入する。

1. 5. 1 使用文字

原則として、資料に記載されているとおりに記入する。ただし、入力に際しては、システムで取り扱えない文字はできる限り近い文字に置き換える。変体仮名は平仮名に改める。万葉仮名はそのまま表記する。くり返しを表すおどり字（「ヽ」「ゞ」「ゝ」「ゞ」「〃」「々」など）もそのまま記録するが、2文字分以上にわたる長さの記号など、転記することが不可能な場合は、該当する文字と同じ文字に置き換える。なお、数字に関しては、巻次の記入（3. 6. 1）を参照のこと。

1. 5. 2 よみの表記

よみの表記は、現代仮名遣い、平仮名表記とする。

1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字

書名の記入および注記で原文から引用文を転記する場合において、破損その他の理由で判読できない文字は、四角（□）を該当文字数分記入する。原則として文字の推読は行わない。ただし、判読不能文字に対応するよみについては、推読して記入する（記載書名のよみ（3. 4. 1）、不明な部分のある書名（3. 4. 3）参照）。

1. 5. 4 補記

原則として補記はしない。ただし、著者役割の記入において、資料に記載されていない情報を補って記録する場合に限り、その事実を示すため、当該事項を角がっこ（[]）に入れる（著者役割（3. 5. 2）参照）。

2. データベースの特徴

2. 1 著作とのリンク

2. 1. 1 典拠コントロール

多様な記載書名を持つ和古書を識別し、同定を行い、また同名異書を判断するためには、著作典拠コントロールが有効である。和古書書誌レコードは、書誌に関する記述のほかに、対応する著作情報を付加することで著作ファイルとリンクし、典拠コントロールを行っている。ただし、本来別の著作として成立したものが後人によってひとまとまりとなった合

刻・合写・合綴の資料については、資料全体に対する「親」レコードと著作のリンク付けを行わない。

典拠コントロールのため、統合古典籍データベースには、書誌ファイルの他に、著作ファイル、著者ファイルが用意されている。

著作および著者レコード作成の基準と作成方法および修正についての詳細は、「統合古典籍データベース著作データ作成マニュアル」および「同著者データ作成マニュアル」を参照すること。

なお、著者レコードは著作レコードとリンクして著作データの著者に関する情報となり、書誌レコードとは直接リンクしない。

2. 1. 2 著作とのリンク

日本古典籍総合目録データベースの著作ファイルに、当該書誌が対応する著作が存在する場合、書誌データに、その著作の情報を付加し、リンク付けを行う。対応する著作がない場合は、新たに著作レコードを作成したのち、その著作の情報を付加し、リンク付けをする。既存の著作レコードのデータを追加、訂正してリンク付けをする場合もある。

著作情報の付加は、著作の WID を記入することにより行う。

2. 1. 3 統一書名

著作データには、著作の代表的な名称である統一書名と別書名（統一書名とはしなかった別の書名）、著者およびその他の識別情報を収録する。

統一書名を決定することにより、ある著作が、さまざまな書名で刊行あるいは書写されている場合にも、統一された書名のもとにその各々の書誌データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著作がない場合は、著作データを新たに作成し、統一書名を決定する。

統一書名は、原則として原本にある形を資料本体から採用するが、箱・帙等にのみ書名がある場合はそこから採用してもよい。原本にその著作の書名が複数ある場合には、代表書名としてより適切な書名を選択する。

原本あるいは書誌データ中の書名が統一書名として適切でない場合は、適切な形に直して記入することができる。また、既に通用している書名が参考資料にあれば、それを優先して用いてもよい。可能な限り参考資料等を調査し、統一書名を決定する。また、ジャンルなどにより、書名の形の統一をはかる場合もある。

なお、記載されている書名から採用する場合の情報源の選択に当たっては、時代、ジャンルあるいは造本等の事情を考慮する。

資料中のどこにも書名の表示がないときは、簡潔で説明的な書名を決定する。

2. 1. 4 著作の著者

著作中の著者に関する情報は、著作著者関係として、著作に記入する。

著者は著作の知的もしくは芸術的内容の創造、ないしは資料への具現化に責任を有する

か、寄与するところがある個人ないしは団体の名称等を著作データに記入する。著者の範囲は、直接的な著作者、すなわち本文の著者とか編さん者、画者などのほか、間接的な原作者、編者、訳者、脚色者なども含む。また、その著作の成立過程からみてそれらの間に一定の順序があれば、その順により記入する。原著者・校訂者、原著者・訳者、著者・編者の順等である。

なお、ここに記入するのは、著作レベルの著者であり、特定の本・版に関わった画者・校訂者等は、原則として含まない。それらを含む資料に記載されている著者名は書誌データに記入する。

2. 1. 4. 1 統一著者名

著者データには、著者の代表的な名称である統一著者名と別称（統一著者名とはしなかった別の著者名）、およびその他の識別情報を収録する。

統一著者名を決定することにより、ある著者が、さまざまな名称で著作を執筆等している場合にも、統一された著者名のもとにその各々の著作データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著者がない場合は、著者データを新たに作成し、統一著者名を決定する。

原則として、著者の主たる活動領域・職業・身分等を考慮した上で、最も通用している名称を統一著者名として採用する。その選定にあたっては、とくに参考資料において多用されている形、あるいは資料上の表示に多用されている形（多くの著作で一致している形）について考慮する。

絵師・歌舞伎役者等のように数代にわたって同一名称を襲名する場合は、世系まで含めた名前を採用する。世系は「漢数字+世」とし、初世は一世に置き換える。

なお、統一著者名として採用しなかったその他の名称のうち、参照項目として必要なものについては別称として採用する。

2. 1. 4. 2 作品著者名

著作の著者を認定し、著作著者関係にその作品著者名を記入する。作品著者名は当該著作を執筆する等の際に用いられた名称である。作品著者名の決定は、原本にある形をできる限り尊重し、要素の逆転等もできる限り忠実に再現するが、字体は支障のない範囲で常用漢字等政令漢字に統一する。

作品著者名は、統一著者名・別称の中から一致するものを選ぶ。記入は、著者データのAID および別称番号により記入する。その著者はあっても該当する別称がない場合は、新たに別称として登録し、その別称番号を用いる。

著者として認定したが、原本等にその記述がないなど作品著者名が明確でない場合は、統一著者名を記入する。そのジャンルや時代などにより推定して記入することはしない。

その著者の名称以外の下記のような要素が含まれている場合は、名前の一部として切り離せない場合を除いて、原則として著者名からははずす。

これらの要素は必要に応じて著者の識別事項として著者レコードに入力する。

国名・王朝名（外国人の場合）
関連地名（出身地・居住地等）
関連人物（家族・家系関係、師弟関係等）
所属（勤務先・寺社名・藩・役所名等）
学問・諸道・諸芸の流派
宗派
官職名（別称や活動領域・職業・身分としなかったもの）

2. 2 書誌構造

資料の書誌構造（書誌レコード間の関係）を以下から選択し記入する。

単独 … ひとまとめりの資料が 1 つの著作に対応するレコード、または、ひとまとめりの資料の中に複数の著作が含まれる場合の各々の著作に対応するレコード（「子」レコード）であることを表す。

叢書 … 叢書の場合の叢書全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合綴（および合綴扱い*）… 合綴および合綴扱いの場合の資料全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合刻・合写 … 合刻、合写の場合の資料全体に対応する書誌レコード（「親」レコード）であることを表す。また、刊写の別との組み合わせで資料が合刻か合写かを表す。

叢書または合綴・合写・合刻の場合は、叢書とその細目、またはその資料全体と合綴等されているものを、上記の書誌構造と個々の書誌レコード番号で相互に関連付けて、資料のまとめりを表す。書誌構造が叢書、合綴、および合刻・合写の場合は、「親」レコードにその「子」の書誌レコード番号を、「子」レコードには「親」の書誌レコード番号を記入し、リンク付けする。叢書・合綴等の中にさらに下位レベルの叢書・合綴等がある場合は、それらを組み合わせる。

* 複数の著作に対応する資料が、形態上は綴じ合わされていなくても、同じ箱や帙に入る、同じに改装されている、後人により合題が付けられているなど、ひとまとめりの資料として伝來したものについては、そのまとめりを表すため、便宜上の合綴とみなし、合綴と同様に扱う。また、記述対象の紙背に著作に対応するものがある場合も、紙表と紙背をひとまとめりとして合綴と同様に扱う。

和古書書誌データ使用コード

单	：	单独
双	：	叢書
綴	：	合綴・合綴扱い
合	：	合刻・合写

3. データ記入要領

3. 1 キイワード

冊子目録作成等、あるテーマ（分類・主題・時代など）に沿って、統合古典籍データベース中の和古書書誌レコードを抽出する際などに、任意のキイワード表によってキイワード等を記入することができる。なお、著作にも識別情報のひとつとしてキイワード（分類）がある。

3. 2 刊・写の別

資料が印刷によるか書写によるかを以下から選択し記入する。

刊 印刷による
写 書写による
混 刊写入り混じり

和古書書誌データ使用コード
刊 : 印刷による
写 : 書写による
混 : 刊写入り混じり

なお、刊本が部分的に補写されている場合、また、一組の刊本のうち部分的に写本で補っている場合には、「混」ではなく「刊」とする。ただし、詳細は書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。一方、写本に刊本による補いがある場合にも同様に扱い、その詳細を出版に関する注記（3. 1 3. 3）に記入する。

3. 3 標目書名

標目書名は本としての資料の代表書名である。原則として、対応する著作の統一書名を資料の代表書名とみなすこととし、標目書名は記入しない。

3. 4 記載書名

原則として資料に記載されている書名をその種別（記載箇所）とともに、すべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ここに記入する書名は、レコード作成の単位に対応するものとする。すなわち、叢書、合綴等の場合は、「親」レコードには叢書名や合題等を記入し、「子」レコードには各々の細目の書名を記入する（具体的なデータの採り方については付表3「叢書・合綴等のデータ項目ふり分け表」を参照すること）。

なお、書名とともに記載されている巻次については、原則として記入しない。

3. 4. 1 記載書名のよみ

よみは既存の書誌データ、著作ファイル、その他の参考資料等を典拠として決定する。ただし、資料（主として刊本・写本）の記載書名に振り仮名があり、通行のよみと異なる場合は、そのよみを採用してもよい。このとき、一般注記（2. 2 1）に「書名よみは振り仮名による」等記入する。典拠等がない場合は推定して記入する。推定による記入の場

合も、よみに角括弧（〔〕）を付けて補記する等はしない。

書名中の年月日等に使用されている漢数字は、算用数字ではなくそのよみを記入する。

3. 4. 2 書名中の区切り記号

情報源で書名の本体と角書・冠称・副書名・部編名等の部分が区別して記載されている場合は、スラッシュ（／）で区切記入する。

〔例〕 歌合／寛政三年九月十三夜

うたあわせ／かんせいさんねんくがつじゅうさんや

3. 4. 3 不明な部分のある書名

書名に、破損、摩滅等で判読できない文字がある場合、その箇所は四角（□）を当該文字数記入する。よみは推定し記入する。

〔例〕 唐人言□

とうじんことば

ただし、記載されていても一字も判読できない場合や、大部分が判読不能でよみが推定できない場合は記入せず、一般注記（3. 13. 11）に「表紙に書名あり（判読不能）」等と記入する。

3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名

原則として、誤記、誤植、誤刻がある場合も、そのまま記入する。対応するよみは正しいものを記入する。ただし、著作の判断を誤る等の著しい誤りの場合はここには記入せず、一般注記（3. 13. 11）に記入する。

3. 4. 5 記載箇所

資料中の記載書名は、下記の箇所から採録する。採録は可能な限りこの順に従う。

なお、書名の記された箇所は原則として現状による。改装されて資料中の記載箇所が移ったような場合は、必要に応じてその旨を形態注記（3. 13. 6）に記入する。

和古書目録書誌データ使用コード

内	卷首（内題）
目	目録冒頭（目録題）
目中	目録中に記された細目
扉	扉（扉題）
扉裏	扉裏（扉裏題）
尾	本文末尾（尾題）
見	表紙見返し（見返し題）
裏見	裏表紙の見返し
外	表紙および題簽（外題）
序首	序文冒頭（序首題）
跋首	跋文冒頭
凡	凡例冒頭
刊	刊記中
奥中	奥書中
序中	序文中
跋中	跋文中
裏表	裏表紙
袋	近世版本等の書袋
柱	版心（柱題・柱刻題）
帙	帙ならびに箱等の容器
X	その他（耳題、欄外題、喉に記された書名、 書根字、極札・極書に記された書名 等）

[注意事項]

- ・外 刊本の場合の外題が、後補の書き題簽、書き外題の場合は、その旨を形態注記（2.21）に記入する。
- ・柱 版心の書名については、簡略化され、他の記載書名の一部であるような表記の場合は、省略することができる。
- ・帙・袋 �帙・箱・袋等については、最近作成されたもので、書名が他の記載書名とほぼ同様の表記である場合は、省略することができる。また、当館で作成したものの場合にはそこに記された書名については採録しない。
- ・X 「その他」の書名については、他に記載書名がない場合などに必要に応じて記入し、一般注記（3.13.11）にその記載箇所を「記載書名は耳題」等と記入する。

3. 4. 6 複数の書名

複数の記載書名がある場合、原則としてすべて記入する。

複数の異なる書名が記されている場合は、記載箇所の異同に関わらず各々記入する。

〔例〕 1 熊野紀行

くまのきこう
内

2 遠江の道の記

とおとうみのみちのき
内

3 熊野の記

くまののき
尾

同一書名が異なる箇所に記されている場合は、中黒（・）で区切って記載箇所を列記する。

〔例〕 後撰和歌集標注

ごせんわかしゅうひょうちゅう
外・序首

3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名

叢書・合綴等の資料全体に関する書名（合題）は「親」レコードに、記載箇所とともに記入する。

〔例〕 三女譚 (おあん物語・おきく物語・妙海語の合写本の合題の例)

さんじょだん
外

合題がない場合、表紙・扉等に細目の書名が列記されていれば、スラッシュ（／）で区切って記載箇所とともに記入する。書名が3つまでの場合はそのまま記入する。4つ以上の場合には、ここには記入せず、一般注記（3. 13. 11）に記載箇所とともに細目書名がある旨記入することができる。

〔例〕 古今集作者／後撰集作者／拾遺集作者

こきんしゅうさくしゃ／ごせんしゅうさくしゃ／しゅういしゅうさくしゃ
扉

3. 5 記載著者名

資料に記載されている著者名を、表記・字体ともそのまま記入する。また、その著者の役割（著作への関与のあり方）や、関与した部編についてもそのままの表記（ただし字体は新字体とする）で記入する。広く画者あるいは校注・校訂者のように著作の成立やその資料の製作に副次的に関わった人物も含める。

異なる箇所にそれぞれ複数の著者名が記載されている場合、原則として卷頭から著者名の一揃いを採録する。ただし、時代・分野等を考慮して、最も通用している著者名が卷頭以外に記載されているような場合（合巻の表紙の画者名など）はそれを採録することができる。また、必要に応じて他の記載箇所から未採録の著者名を採録することができる。その場合、記載箇所を著者に関する注記に記入してもよい。（著者に関する注記（3. 13. 2）参照）。

1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、役割ごとに著者名を記入する（複数の役割表示（3. 5. 2. 1）参照）。

また、同じ役割の著者が複数ある場合は、必要に応じて幾人かを挙げて他を省略することができる（複数の著者の省略（3. 5. 3. 1）参照）。

3. 5. 1 著者名の記入

著者名の表記は、姓・名・号・世系等の要素ごとにスラッシュ（／）で区切って記入する。ただし、「暁鐘成」「元木綱」のように、姓・名のような形に似せて作られた戯名・号などは、区切らず続けて記入する。尊称等は「醍醐／天皇」「円光／大師」「菊亭／主人」「東光堂／先生」のように区切って記入する。要素の区切り等についての詳細は、「統合古典籍データベース著者データ作成マニュアル」の付則2「著者名要素区切りマニュアル」を参照すること。居住地・藩名や役職名等の肩書、所属団体名などは原則として著者名要素としない。ただし、前出の著者との続柄等が識別のために必要となる場合は著者名要素として記入する。

よみは記入しない。

〔例〕 紀／貫之

〔例〕 菅原／孝標／女

〔例〕 源／之熙／君績

男／修／士業

3. 5. 2 著者役割

著者の役割は、原則として、資料に記載されているものを著者名のあとにそのまま記入する。ただし、旧字体で記載されている場合は新字体に置き換える。

〔例〕 平／春海 評

なお、同じ内容の役割が部所により異なった表記で記載されている場合（例えば、見返しに「編」卷頭に「編輯」刊記に「編纂」など）は、採録した著者名とともに記載されている表記を選択し記入する。

役割が記載されていない場合は記入しない。ただし、他の著者の役割と異なる場合など、役割を明記する必要がある場合は、適切な役割を角がっこ（〔 〕）に入れて補記する。

〔例〕 兼載

〔例〕 宗長 [判]

3. 5. 2. 1 複数の役割表示

1つの著者名に対して複数の役割の記載がある場合は中黒（・）で区切り、役割表示をくり返す。

〔例〕 十返舎／一九 著・画

ただし、1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、複数の著者（3. 5. 3）と同様に各々別に記入する。

〔例〕 山東／京傳 作

北尾／政演 画

3. 5. 3 複数の著者

著者を2人以上記入する場合は、同じ役割表記であっても各々の著者に役割を記入する。

〔例〕 式亭／三馬 編

歌川／豊國 画

歌川／豊廣 画

3. 5. 3. 1 複数の著者の省略

同じ役割の著者が複数記載されている場合は、記載順もしくは主要な3人を採録して他を省略することができる。その場合、役割表示の前に「等」を記入する。ただし、場合により省略しない（4人の句集等）。

〔例〕 六樹園大人

浅草庵大人

鈍々亭大人 等 撰

3. 5. 4 著者の推定

著者名とともに著者が言い伝えによることを示す「伝」等の記載がある場合は、役割と共に「伝」と記入する。

〔例〕 藤原／定家 編 伝

3. 5. 5 部編等の注記

資料が複数の部編等に分れていて、各々に異なる著者名が記載されている場合は、著者名のあとに該当する部編名等を記入する。1つの著者名ごとに記入することとし、同一部編内に複数の著者がある場合は、各々の著者名に記入する。

部編の数字、区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）で示す方法で記入する。

[例]	柳川／重信	画	初～六編
	溪斎／英泉	画	初～六編
	歌川／國直	画	七～九編

また、1人の著者が部編により異なった著者名で記載されている場合は、部編ごとに著者名、役割等を記入する。

[例]	一陽斎／豊國	画	初編
	香蝶樓／國貞	画	二編

なお、合巻等で多数の部編があり、それぞれに複数の組み合わせの著者名が記載される等、記入が繁雑になる場合には、より多くの部編に共通する著者名、役割等の一揃い、もしくは、最初の部編に記載されている著者名、役割等の一揃いを部編名等とともに採録し、他の部編については、必要に応じて著者に関する注記（3. 1 3. 2）に記入してもよい。

3. 5. 6 国名・王朝名

著者名（外国人）に国名（蘭・英等）、中国・朝鮮の王朝名（唐・清等）が付されている場合は国名、王朝名を丸括弧（（ ））に入れ、著者名の前に記入する。表記は記載されているまま、字体は新字体とする。

[例]	（清）／吳／清鎮	撰
-----	----------	---

3. 6 卷次

資料から卷次を記入する。判断のつく限り、冊数とは区別し、内容としての卷数を卷次で記入する。原則として完本の場合に記入し、残欠がある場合はここには記入しない。残欠がある場合は、残欠本の卷数表示の規定（3. 1 1）により記入する。

3. 6. 1 卷次の記入

数字については、卷次を示す場合は、漢数字とする。また、「10」は「一〇」、「250」は「二五〇」とし、十、百、千の字は使用しない。

このとき、区切り記号は、次のように統一する。

- ① 続く場合は波ダッシュ（～）、途切れる場合は中黒（・）を用いる。ただし、二つの数字が続く場合は「一・二」とし、「一～二」としない。
- ② 「上中下」、「乾坤」などは間に区切り記号を入れない。
- ③ 「前編一～三」「後編一～三」などの間は、カンマ（，）で区切る。

[例] 卷之一・二

第一～七輯

初編卷一～三，二編卷一～三，三編卷一～四

卷一～一〇，附錄

上中下

仁義礼智信

また、注記等で、全体でいくつあるかを示すときは算用数字を使用する。

[例] 全八卷 → 8卷

この記入方法については、和古書の書誌レコード中に記入する他の巻数および部編等の記入についても適用する。

3. 6. 2 原欠本の記入

原欠（現存の伝本がない部分）の場合には、完本と判断し、残欠表示ではなく、巻次に含めて記入する。残欠の状態を丸がっこ（（ ））に入れ、完本の巻次に続けて記入する。

[例] 卷一～三一（卷八・一八・二一原欠）

（注）31卷中、3卷（卷八・一八・二一）原欠の場合

3. 7 書写事項

書写に関する下記の事項を記入する。最終書写記であると判断できる場合にのみ記入する。奥書等に記載があっても、その資料の実際の書写に関するものか判断がつかない場合、また転写本の場合の以前の書写に関する事項等はここには記入せず、書写に関する注記（3. 13. 4）に記入する。記入に際しては、判断が必要になるので十分な注意を要する。

3. 7. 1 書写者

書写者の記載があれば、表記・字体ともそのまま記入する。記載著者名（3. 5）と同様に要素に分け、スラッシュ（／）で区切り記入する。ただし、よみおよび役割表示は記入しない。

[例] 西下／經一

書写者は資料の記載をそのまま記入する。参考資料等によって、書写者についてより明らかな情報がわかれれば、書写に関する注記（3. 13. 4）に記入する。

[例] 通邦

（書写に関する注記に「稻葉通邦写」と記入）

3. 7. 2 書写地

記載された地名が書写地（製作地）であることが明らかな場合は、書写者名のあとに山がっこ（〈〉）に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

原則として都市名を転記する。都市名がなく町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する（三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する）。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 本居／宣長〈松阪〉

3. 7. 3 書写年

書写年の記載があれば記入する。書写年が元号と年数の形で記されている場合は、元号と算用数字の形に統一する。その場合、元号の字体は新字体に統一し、「年」は省略し、「元年」は「1」とする。

〔例〕 寛政 1

〔例〕 正徳 3

年次が元号と十干十二支だけで記されている場合は、相当する年数に置き換えて記入する。

〔例〕 「寛永癸酉年」→ 寛永 10

元号がなく年次（年数または十干十二支）だけで記されている場合は書写に関する注記（3. 13. 4）に記入する。その際、参考資料等から元号や年数が推定できればそれを付記し記入する。

2年以上にわたって書写された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

〔例〕 文政 5～文政 6

書写記等の記載はなくても、書写年やおおよその書写年代が資料、その他参考資料等から推定できる場合は、ここには記入せず書写に関する注記（3. 13. 4）に記入する。

3. 7. 4 複数の書写事項

補写などにより、複数の書写事項がある場合は、これをすべて記入することができる。その際、各々の部編名等を記入する。部編名中の数字、区切り記号は巻次の記入（3. 6. 1）で示した方法で統一する。

〔例〕 文化7　卷一～卷四
黒川／春村　文化10　卷五
(卷一～卷四是文化7年写(書写者不明)、卷五是文化10年黒川春村写)

3. 8 出版事項

出版に関する下記の事項を記入する。その本が出版された年、関係した書肆等の名前、地名を記入する。従って再刻、後修や後刷の場合の以前の出版に関する事項や蔵版についてはここには記入せず、出版に関する注記(3. 13. 3)に記入する。

情報は原則として刊記から採録する。ただし、刊記がない場合、またはあっても不十分・不適切な場合等で、それ以外の箇所(見返し・蔵版目録等)に有効な情報がある場合には、その箇所から採録し、その旨を出版に関する注記(3. 13. 3)に記入する。

3. 8. 1 出版者

書肆等の出版者の記載があれば、その姓名、屋号等の表示をすべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ただし、書肆名とともに「売捌」「売弘」等の記載があり、それが売捌人であることがわかる場合は採録しない。記載著者名(3. 5)と同様に要素に分け、スラッシュ(/)で区切って記入する。よみは記入しない。

〔例〕 井筒屋／庄兵衛
勝村／治右衛門
千鐘房／須原屋／茂兵衛
文永堂／武田／傳右衛門

なお、書肆名とともに「板」「版」「梓」「梓行」「蔵板」「蔵版」等の記載や朱印等がある場合、ここには書肆名だけを記し、「板」等については出版に関する注記(3. 13. 3)に記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛
(出版に関する注記に「刊記に須原屋茂兵衛板とあり」と記入)

なお、書肆ではない蔵版者については、出版に関する注記(3. 13. 3)に記入する。

3. 8. 1. 1 複数の書肆名

複数の書肆名を列記する場合は、カンマ(,)で区切って記入する。

〔例〕 出雲寺／和泉掾、吉田／四良右衛門、野田／彌兵衛

3. 8. 2 出版地

地名(書肆所在地名)の記載があれば、書肆名のあとに山がっこ(<>)に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛 〈江戸〉， 柏原屋／清右衛門 〈大坂〉

原則として都市名を転記する。都市名がなく、町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する（三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する）。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 大阪 → 〈大阪〉
御堂筋 → 〈大坂〉
寺町通 → 〈京〉

3. 8. 3 出版年

出版年の記載があれば記入する。記入の方法は書写年（2. 15. 3）に準ずる。

出版年はその本が出版された年とする。従って、再刻、後修や後刷等の場合に、複数の情報があるときは、最新の刊年を出版年とする。その際、以前の出版に関わる年は出版に関する注記（2. 21）に記入する。

2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年

出版年の記載はないが序跋年が出版年に等しいと推定できる場合でも、序跋年を出版年としては記入しない。序跋に関わる事項として必要に応じて序跋注記（3. 13. 5）に記入する。その場合も、年を表す数字は算用数字に統一する。

3. 8. 4 複数の出版事項

資料が複数の部編等に分かれている、各々出版事項が異なる場合は、これをすべて記入することができる。その際、出版者、出版地、出版年のあとに各々の部編名等を記入する。ただし、多数の部編がある場合は、最新の部編の出版事項を記入し、他の部編については、必要に応じて出版に関する注記（2. 21）に記入する。また、書肆に異同がない場合は、まとめて記入することができる。その場合、2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

なお、刊行開始の年部編名中の数字、区切り記号は、巻次の記入（2. 14. 1）で示した方法で統一する。

〔例〕 和泉屋／金右衛門 〈江戸〉， 英／文藏 〈江戸〉 天保 14 初編
須原屋／茂兵衛 〈江戸〉， 英／文藏 〈江戸〉 文久 3 二・三編

3. 9 数量

資料の数量を記入する。「冊」等の単位を用いて数字+単位で記入する。数字はすべて算用数字とする。単位は装訂や形態を考慮して下記のものを用いる。さらに詳細な情報(折・面・曲・綴・帙等)については必要に応じて形態注記(3. 13. 6)に記入する。

また、改裝されたものの場合は、現在の状態について記入し、以前の装訂に関するこことは必要に応じて形態注記(3. 13. 6)に記入する。

冊	:	袋綴、粘葉装(胡蝶装)、列帖装(綴葉装)、包背装、結び綴(大和綴)、仮綴、紙釘装
帖	:	折本・折帖・画帖装
軸(巻)	:	巻子本(巻は軸のない場合)
幅	:	掛物(幅物・掛軸)
枚	:	一枚物、短冊
丁	:	もとは綴じられた冊子の部分
通	:	書簡
舗	:	畳物
双	:	屏風(一对揃っている場合)
隻	:	屏風(一对の片方のみの場合)
点、束、包、箱	:	その他

ひとまとめりの資料が異なる装訂の資料を含んでいる場合、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記(2. 21)に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒(・)で区切り列記する。

叢書・合綴等において、ひとまとめりの資料が異なる装訂の「子」レコードを含んでいる場合、「親」レコードには、全「子」レコードのそれぞれの装訂の数量を中黒(・)で区切り列記する。また、各々の「子」レコードには、その部分の数量を記録する。その場合も、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記(2. 21)に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒(・)で区切り列記する。

[例] 古今和歌集 2 冊

(〈一般注記〉に「〈般〉二世畠山牛庵添状1通を付す」と記入)

[例] 寛永行幸記 2 軸・1 帖

(もとは3巻3軸のものが、巻3のみ折本に改裝)

3. 10 形態的事項

資料から丁数(葉数)および大きさを記入する。数字はすべて算用数字とする。

資料が1冊の場合、丁数を記入する。複数冊の場合は、丁数を省略することができる。

合刻・合写・合綴の場合の「子」レコードが、それぞれ1冊に満たない場合は、数量（3.9）は記入せず、ここに丁数を記入する。ただし、その「子」レコードが単独で複数冊にまたがっているような場合は、数量（3.9）を記入し、丁数は省略することができる。

丁数は、綴じられた冊子の紙数を数え、数字+「丁」で記入する。丁付けについては、必要に応じて形態注記（3.13.6）に記入することができる。

資料の大きさは、下記の（1）～（6）に従って記入する。大きさの記入については、センチメートル単位とし、小数点第1位までとする。前表紙（資料が複数冊の場合は第1冊）の綴じ側の天地と上辺を測る。複数冊で冊により大きさが数ミリメートルを越えて異なる場合は、主な大きさをここに記入し、残りは形態注記（3.13.6）に記入する。

（1）版本（冊子）の場合は 縦×横を記入し、さらに書型（**）を記入することができる。

特大・特小・拵・縦・横に該当するものについては、縦×横、書型の両方を記入する。

（2）巻子本、掛物、書簡は、料紙の幅（高さ）を記入する。

（3）畳物については広げた大きさの縦×横を記入し、畳んだ大きさを丸がっこ（（ ））に入れて付記する。

（4）屏風はその外寸の 縦×横 を記入する。

（5）その他、一枚物等は 縦×横 を記入する。

（6）巻子本の料紙の全長・続紙の紙数・表紙（見返し）の縦と横の大きさ、掛物の本紙の大きさ・紙数、屏風の貼り紙の大きさ等は、必要に応じて形態注記（3.13.6）に記入する。

** 書型 以下の中から略号を選んで記入する。（ ）内は大よその目安。

大： 大本・美濃本、美濃紙二つ折（たて26～28cm）

半： 半紙本、半紙二つ折（たて22～25cm）

中： 中本、美濃紙二つ折の二つ折（たて18～20cm）

小： 小本、半紙二つ折の二つ折（たて15～17cm）

特大： 特大本・大美濃本、「大」より大きいもの

特小： 特小本、「小」より小さいもの

拵： 拵形本、ほぼ正方形

縦： 縦長本、横に比して縦の長さが特に長いもの

横： 横本、縦に比して横の長いもの

3.10.1 形態的事項の記入

複数の項目がある場合は、丁数、大きさ、書型の順に列記する。

〔例〕 85.0×44.5 cm
12.1×18.3 cm, 横
7丁, 26.2×18.5 cm, 大

3. 11 残欠表示

資料が完本でない場合、残欠に関する事項を記入する。
具体的な冊次・巻次で記入できる場合は、「○○存」、「○○欠」と記入する。
丁単位等の欠落についても、ここに記入する。
数字・区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）に従う。
なお、原欠が判ったものについては、残欠表示ではなく巻次に含めて記入し、残欠状態の記入については、この記入方法に従う。

〔例〕 第二冊（巻三～五）欠
上欠
坤存
巻五・七存
零本
残欠あり
前半欠
巻之二第三丁欠
第一冊末欠
初編、二編巻之三下・四上、三編巻之一存
冒頭約40～50字、中間約1200字欠

3. 12 叢書巻号表示

書誌構造を作成した叢書で、その巻次、部編名などが記載されている場合、細目に当る「子」レコードに、該当する巻次、部編名等を記入する。表示は、そのまま転記する。叢書名は、ここには記入しない。

〔例〕 「親」レコード：丹鶴叢書
「子」レコード：和泉式部集（丹鶴叢書 第三冊）の場合
叢書巻号表示 → 第三冊 と記入

3. 13 注記

前項までの各書誌的事項に関する説明や、それらの項目に記述できなかった事柄等を、資料およびその他参考資料等から必要に応じて記入する。字体は原則として新字体に統一するが、資料記載事項の引用（本文、奥書等）や著者に関する注記の著者名についてはそのまま記入する。記入に際しては簡潔な表現を心がける。

貴重書およびそれに準ずるものについては、できる限り詳しく記入する。

資料、参考資料等から原文を転記する場合は、すべてかぎかっこ（「」）で囲む。原文の種類と記載場所等を示す事柄を丸がっこ（（ ））に入れて先頭に付けることができる。

〔例〕　　（奥書）　（巻五末）　「〇〇〇」

注記の種類および記入順序は以下のとおりとする。

和古書書誌データ使用コード

- 〈系〉 : 系統注記
- 〈著〉 : 著者に関する注記
- 〈版〉 : 出版に関する注記
- 〈写〉 : 書写に関する注記
- 〈序〉 : 序跋注記
- 〈形〉 : 形態注記
- 〈奥〉 : 奥書・識語注記
- 〈書〉 : 書入れ・校合注記
- 〈伝〉 : 伝来注記
- 〈叢〉 : 叢書注記
- 〈般〉 : 一般注記
- 〈備〉 : 備考

3. 13. 1 系統注記

本の系統に関する事柄を記入する。

〔例〕　　中村本
三撰本
古淨瑠璃五段本
土佐少掾橋正勝正本
觀世左近太夫入道章句本

3. 13. 2 著者に関する注記

その資料に関わる著者についての事柄を記入する。

ただし、著作レベルの著者の別名、身分・職業・活動分野等、著者関連情報については、必要に応じて統合古典籍データベース著者ファイルの著者レコードの該当するフィールドに記入する。

〔例〕 奥書に兼載作とあり
書袋には八文字屋自笑作とあり
飛鳥井雅綱についての書付あり

3. 13. 3 出版に関する注記

当該資料の出版に関する事柄のうち、出版事項に入るべきもの以外をここに記入する。
写本の刊本による補い等についてもここに記入する。
蔵版者に関する事柄についてはここに記入する。
また、版の種類を示す事柄について記入する。版（刊・刻）・刷（印）・修の関係、丹
緑本、古活字版（古活字本）、木活字版（木活字本・近世活字版（本））等についても記
入する。

〔例〕 慶応3年卯年改
卷五に寛文十二表紙屋庄兵衛板とあり
後見返しの蔵開版目録に享和2年とあり
見返しに嘉永新刻とあり
出版年は見返しによる
鈴乃屋藏版とあり
橋枝堂蔵版目録を付す
別本刊記（延宝8年大坂深江屋太郎兵衛刊）を後に貼付したもの
須原屋茂兵衛に版元印あり
寛永中刊古活字版
古活字覆刻整版本
天保3年版の再刻
寛文12年版の後刷
元文5年版新版絵入つれづれ草の補刻
丹緑本
明治版
高野版
拓本

また、必要に応じて刊記を転記することができる。

〔例〕 （刊記）「寛文二年壬寅仲春下旬開板」

3. 13. 4 書写に関する注記

書写に関する事柄を記入する。奥書、書入れに関する注記は、原則として各々の種別に
振り分けて記入するが、「○年奥書本の写」「○○書入本の写」「○○文庫本の写」など
のように、資料を特定する場合はここに記入する。手稿本、ペン写、補写などについても

記入する。刊本の補写の場合もここに記入する。

資料に記載がないが極札、考証等から「著者自筆」と推定できるような場合は、ここに記入する。

[例] 江戸初期写
新写本
巻二は別筆
図書寮蔵本の写
真淵書入本の写
慶安5年刊上村次郎右衛門版の写
欠丁の部分を補写
著者自筆
著者自筆稿本
極札に冷泉為広筆とあり
奈良絵本
奥書に辛卯とあり

3. 13. 5 序跋注記

序、跋に関する事柄を記入する。原則として、著作の認定に関わるものや、成立を示す場合、もしくは出版年と等しいと推定できる場合に記入する。

複数の序跋がある場合は、中黒（・）で区切り列記する。

[例] 文化14年岸本由豆流序
蚊田蒼生の跋あり
寛文2年陳元贊序・同年元政序
天明7年自序・寛政9年林述斎跋
万延元年杞憂道人序・同文久元年跋

3. 13. 6 形態注記

資料の物理的、形態的な事柄で、形態的事項に入らないものを記入する。装訂・形態・匡郭・行数・字数・題簽・表紙・料紙その他について、必要に応じて記入する。虫損・水濡れなどの資料の保存状態もここに記入することができる。

補修・改装については、重要なものについて記録する。記入するときには、受入時点で既に行われていたものと当館で行ったものを識別できるようにする。なお、当館での補修については、別途補修記録もを作成する。

袋綴じ（線装）以外の装訂・形態について必ず記入する（装訂の名称は、数量（2. 17）を参照）。なお、線装の様式についても必要に応じてここに記入することができる。

書簡等で、書名中にその用語が含まれているため、その装訂が判断できるものは省

略しても良い。

[例] 第四冊 24. 5×32. 1 cm
書袋あり
3冊本の合綴
屏風貼込み（原型は横本約17×27cm）
表紙・巻頭1丁後補
外題は後補、書き題簽
懐紙改装
原装は列帖装
絵入料紙使用原懐紙1巻
虫損あり
水損甚し
巻子本
結び綴
康熙綴

3. 13. 7 奥書・識語注記

その本に関して後に書き記された文章・文字に関する事柄を記入する。

複数の奥書、識語がある場合には、中黒（・）で区切り列記する。

[例] 文亀2年宗祇の奥書あり
賀茂季鷹・百合園蓮阿の識語あり

資料の文をそのまま転記することができるが、長すぎる場合は重要な部分を抜き出し、それ以外の部分は、丸がっこに入れた三点リーダー「（…）」に置き換えて省略することができる。

[例] （識語）「此一冊小笠原佐渡守様奥様御幼年常姫様之御筆也／故有被下老女／藤枝／宮内明哲三橋」
(奥書) 「寶永二のとし五月下浣中岳依田氏亮村稿」「寶永三丙戌四月下旬以自息軒主舟橋式部少輔所藏本校正畢」
(奥書) 「本云／右此本者二條家為定卿以自筆写之（…）藤原雅教」

3. 13. 8 書入れ・校合注記

本文に対する注・評・点等の書入れ、あるいは他のテキストとの本文の比較に関する事柄を記入する。

[例] 朱書あり
墨細字の頭注・割注あり
清水浜臣の書入れあり
書入れについて極札に「紹巴は墨・三條は朱・正澄は朱」とあり
点印あり
天保13年長澤伴雄朱校あり
図書寮本による校合あり
平縁信校合本

3. 13. 9 伝来注記

資料の旧蔵者に関する事柄を記入する。資料中の記載事項、その他により採録する。

[例] 式亭三馬旧蔵
九条家旧蔵本
飛鳥井雅豊手沢本

また、資料中の蔵書印について記入する。蔵書印記を資料から転記する。ただし、字体は原則として新字体に統一する。なお、寄託資料の所蔵者等の蔵書印については採録しない。

[例] (印記) 「真木園図書記」
(印記) 「吉田蔵書」「陽春廬記」
(印記) 「口川蔵書」
(印記) 「青洲文庫」「南葵文庫」他

3. 13. 10 叢書注記

原則として、資料が叢書中の端本の場合にのみ記入する。叢書名、部篇名、巻次（叢書番号）等をブランクで区切って記入する。

なお、書誌構造を作成した叢書の細目に当るレコードの場合は、部編名、巻次等を叢書番号表示（3. 12）に記入し、叢書注記は記入しない。

[例] 続群書類従 和歌部 四二二
甘雨亭叢書 第五集
拙修斎叢書

3. 13. 11 一般注記

各データ項目の補足説明、その資料の特徴、性質等を示す事項、その他上記の注記の種別に入らない事柄を記入する。

〔例〕 絵入本
上段にうすゆき物語・下段に伊勢物語
前題百詠・後題百詠を収む
尾藤二洲・中井董堂・頼春水等近世儒者の書簡 52通の貼込み
主として天保・嘉永・安政期における中の芝居・角の芝居の役割番附
2種取り合せ本
漢詩8編を付す
歌題「寄野菜恋」
子息市左衛門宛
外題よみは振り仮名による
記載書名は耳題
表紙に細目書名を列記
天保4年成立
旅眼石の改題本

3. 13. 12 備考

書誌データ作成の典拠となった、参考資料等について記入することができる。記述したデータ内容には直接関わらないが、情報として公開したい事項をここに記入する。なお、この記入は慎重におこなう。

〔例〕 「増補吉活字版之研究」上巻 p 524 参照
〔例〕 「高野板之研究」高野板上木年表参照

3. 14 業務メモ

データ作成の際の覚書等を、業務メモとして必要に応じて記入する。

〔例〕 書名のよみは「仏教大辞典」による

付表1 和古書目録書誌レコードデータ項目

マニュアル 項番	デ　一　タ　項　　目	作成
2.2	書誌構造	◎
2.1	著作とのリンク（WID）	◎
3.1	キーワード	△
3.2	刊・写の別	◎
3.3	標目書名	○
3.4	記載書名	○
3.5	記載著者名	○
3.6	巻次	○
3.7	書写事項	○
3.8	出版事項	○
3.9	数量	◎
3.10	形態的事項	○
3.11	残欠表示	○
3.12	叢書巻号表示	○
3.13	注記	○
3.14	業務メモ	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて記入 △ 当面記入しない

付表2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報源

マニュアル 項目番	デ 一 タ 項 目			情報源
2.2	書誌構造			資料
2.1	著作とのリンク	WID		日本古典籍総合目録 (データベース)
	新規著作作成	統一書名		資料・参考資料
		著者		資料・参考資料
		その他識別事項		資料・参考資料
	新規著者作成	統一著者名		資料・参考資料
		著者別称		資料・参考資料
		その他識別事項		資料・参考資料
3.1	キーワード			資料・参考資料
3.2	刊・写の別			資料
3.3	標目書名			資料・参考資料
3.4	記載書名			資料・よみは参考資料
3.5	記載著者名			資料・よみは参考資料
3.6	巻次			資料
3.7	書写事項			資料
3.8	出版事項			資料
3.9	数量			資料
3.1	形態的事項			資料
3.11	残欠表示			資料
3.12	叢書巻号表示			資料
3.13	注記			資料・参考資料
3.14	業務メモ			資料・参考資料

付表3 叢書・合綴等のデータ項目ふり分け表

データ項目	叢書		合綴		合刻		合写	
	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード
書誌構造	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
著作とのリンク(WID)	◎	◎	×	◎	×	◎	×	◎
キーワード	○	○	×	○	×	○	×	○
データのレベル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
刊写の別	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
標目書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載著者名	○	○	×	○	×	○	×	○
巻次	○	○	×	○	×	○	×	○
書写事項	○	○	×	○	×	×	○	×
出版事項	○	○	×	○	○	×	×	×
数量	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
形態的事項	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○
残欠表示	○	○	○	○	○	○	○	○
叢書巻号表示	×	○	×	×	×	×	×	×
注記	○	○	○	○	○	○	○	○
業務メモ	○	○	○	○	○	○	○	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて採録 × 不採録

- * 原則として親レコードには全体に関する事項、子レコードには各々の細目に関する事項を記入する。例えば、資料の数量については、親レコードには全体の数量、子レコードにはその著作の含まれている資料の数量を記入する。

付表4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの作成と表示

	資料(例)	データ構造	データ作成	公開データベースの検索結果の表示
叢 書	三代集(嘉永6年刊 6冊) 古今和歌集(2冊) 後撰和歌集(2冊) 拾遺和歌集(2冊)	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す	親レコード A (1件)	子書誌: a1, a2, …, an 表示: 書誌構造
			子レコード A1, A2, …, An (n件)	親書誌: a, (叢書卷号表示) 表示: 書誌構造
合 綴 ・ 合 刻 ・ 合 写	〈合刻の例〉 刊 1冊 おあん物語 おきく物語	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す (合刻・合写の子レコードはダミーの書誌)	親レコード A (1件) (親レコードは著作リンク情報をもたない)	子書誌: a1, a2, …, an 表示: 書誌構造
			子レコード A1, A2, …, An (n件)	親書誌: 書名なし 表示: 書誌構造

*1 合綴・合刻・合写の子レコードの数量は、各々の細目が含まれている資料の数量とする。

*2 叢書内合刻、合綴内合写、その他、第2レベルの親子の関係をもつ場合は、この組み合わせとなる。

*3 a は親レコードのリンクしている著作の統一書名、a1, a2, …, an は各々の子レコードのリンクしている著作の統一書名。
a, a1, a2, …, an 何れか参照したいレコードの書名をクリックすると、別ウインドウが開き、該当するレコードの詳細が表示される。
また、「書誌構造」をクリックすると、同様に別ウインドウが開き、全体の関係が表示される。